

第1次佐伯市総合計画後期基本計画策定用  
市民意識調査(市民アンケート)結果  
【平成23年度実施】

佐伯市

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

第1次佐伯市総合計画後期基本計画(平成25年度～平成29年度)の策定にあたり、市民の意見や意識動向を反映させるため、アンケート調査を実施した。

### (2) 調査対象

佐伯市に居住する18歳以上の人を対象に約3,500人を無作為に抽出して依頼した。

ア 対象年齢 18歳以上90歳未満(平成23年4月1日現在)

イ 除外者 市会議員、市職員、特別養護老人ホーム等施設入居者(住所の方書で判断)

### (3) 調査項目

調査項目は、前期基本計画策定に際し実施した平成19年7月のアンケートと比較をするため、同じ内容とし、設問内容は全く変えていない。

ア 地域の環境

イ 今後の施策

ウ 福祉サービス

エ 行政評価

オ 協働参画

カ 行革について

キ 自由意見

### (4) 回収数及び回収率

発送数 3,494件 (3,500件)

回収数 1,392件 (1,581件)

回収率 39.8% (45%) ( )内は前回の数値

### (5) 調査方法等

ア 氏名無記名式のアンケート

イ 記載方法は、選択方式を中心にしている。

ウ 郵送による配送、回収(市役所に持参も有り)

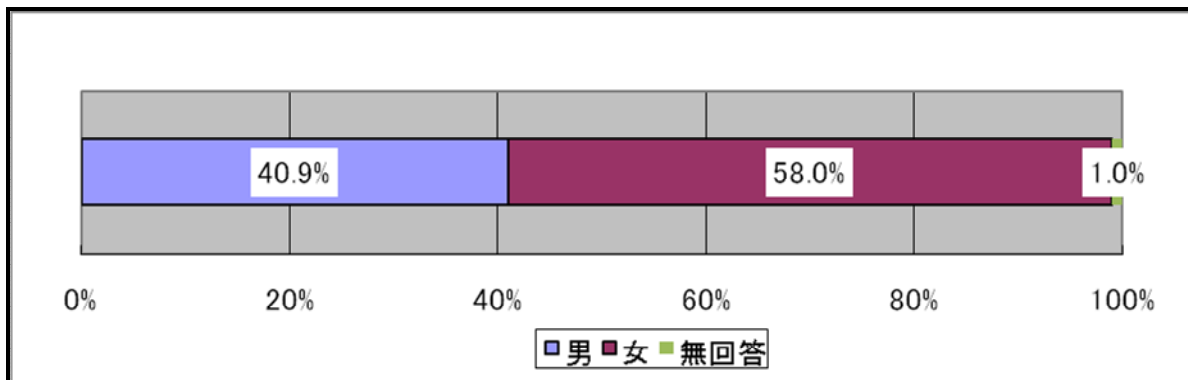
### (6)

ア 配布日 平成23年4月25日

イ 回収期限 平成23年5月20日(最終の回答7月11日分まで集計した)

## 2 回答者の属性

### (1)性別



#### ○今回結果

男性570人(40.9%) 女性808人(58.0%) 無回答14人(1.0%)

※国勢調査時(平成22年調査)

人口総数 76,951人 男性35,457人(46.1%) 女性41,494人(53.9%)

#### ○前回結果

男性735人(46.5%) 女性837人(52.9%) 無回答9人(0.6%)

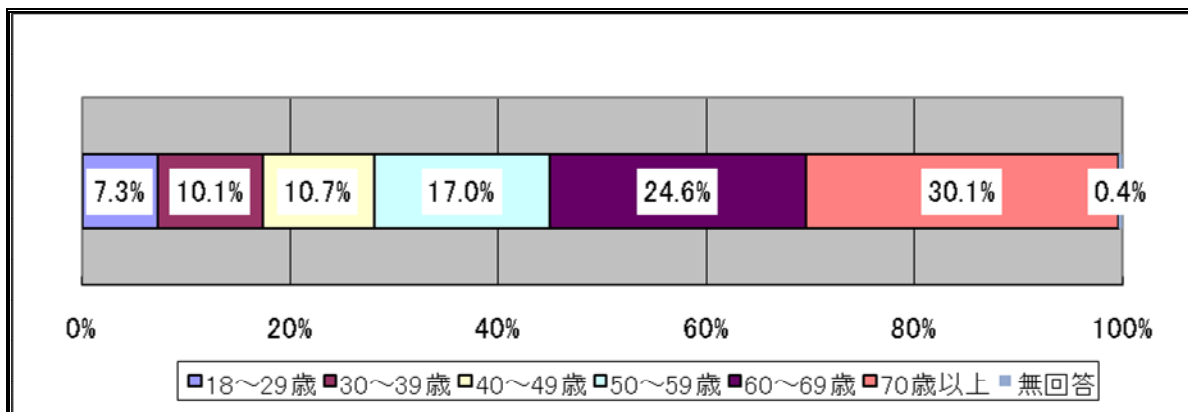
※国勢調査時(平成17年調査)

人口総数 80,297人 男性36,898人(45.95%) 女性43,399人(54.04%)

#### ○前回との比較

男性の割合が5.6ポイント減り、女性の割合が5.1ポイント増えた。

### (2)年齢



#### ○今回結果

回答割合は、60歳未満(45.1%)と60歳以上(54.7%)に大きく分かれる。

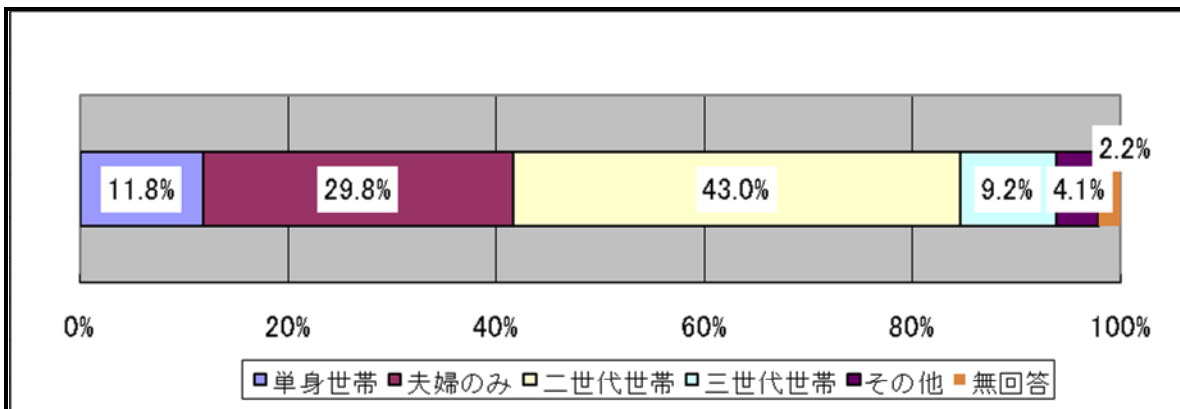
#### ○前回結果

60歳未満(48.6%) 60歳以上(51.0%)

#### ○前回との比較

各世代間の割合に大きな違いはない。

### (3) 家族構成



#### ○今回結果

二世世代世帯(親と子ども、親と子ども夫婦)が一番多く43.0%、次に夫婦のみが29.8%となり全体の7割を超えている。その次に単身世帯が11.8%となっている。

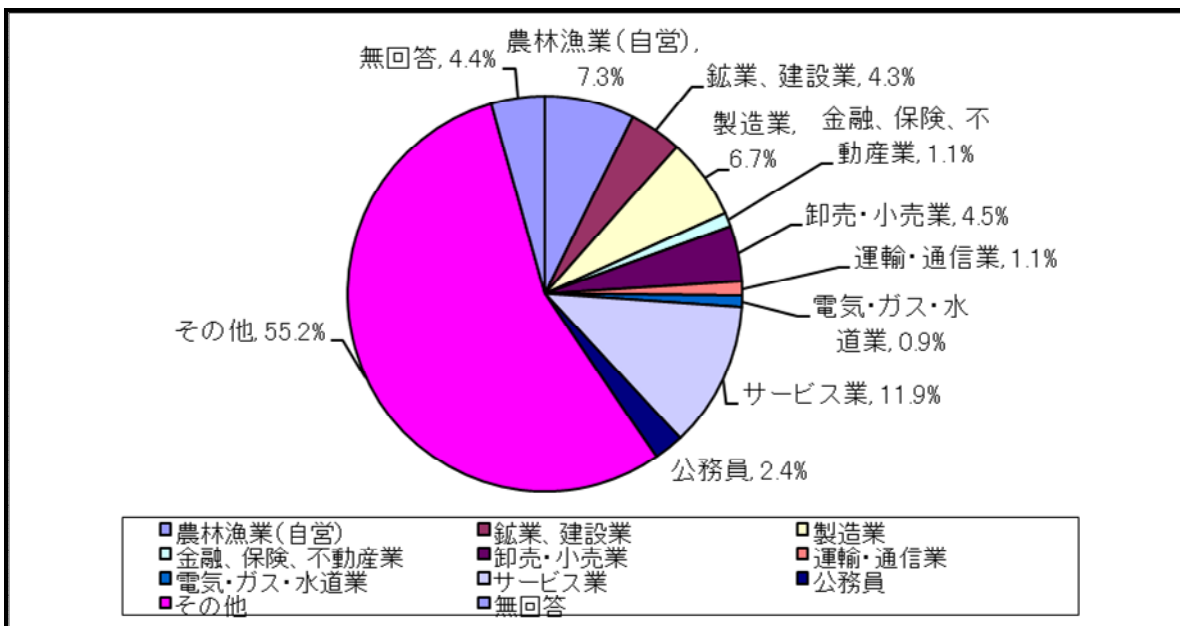
#### ○前回結果

二世世代世帯(41.4%)、夫婦のみ(28.0%)、三世世代世帯(12.8%)、単身世帯(10.3%)

#### ○前回との比較

三世世代世帯の占める割合が前回より減ったが、全体的にはほとんど変わらない回答結果となった。

### (4) 職業



#### ○今回結果

その他(55.2%)が一番多く、サービス業(11.9%)、農林業業(7.3%)となっている。その他については、年金受給者、主婦が大半を占めていると思われる。

#### ○前回結果

その他(50.8%)、サービス業(11.1%)、農林漁業(9.4%)

#### ○前回との比較

全体の傾向に目立つ差はないが、農林漁業の割合が2.1ポイント下がった。

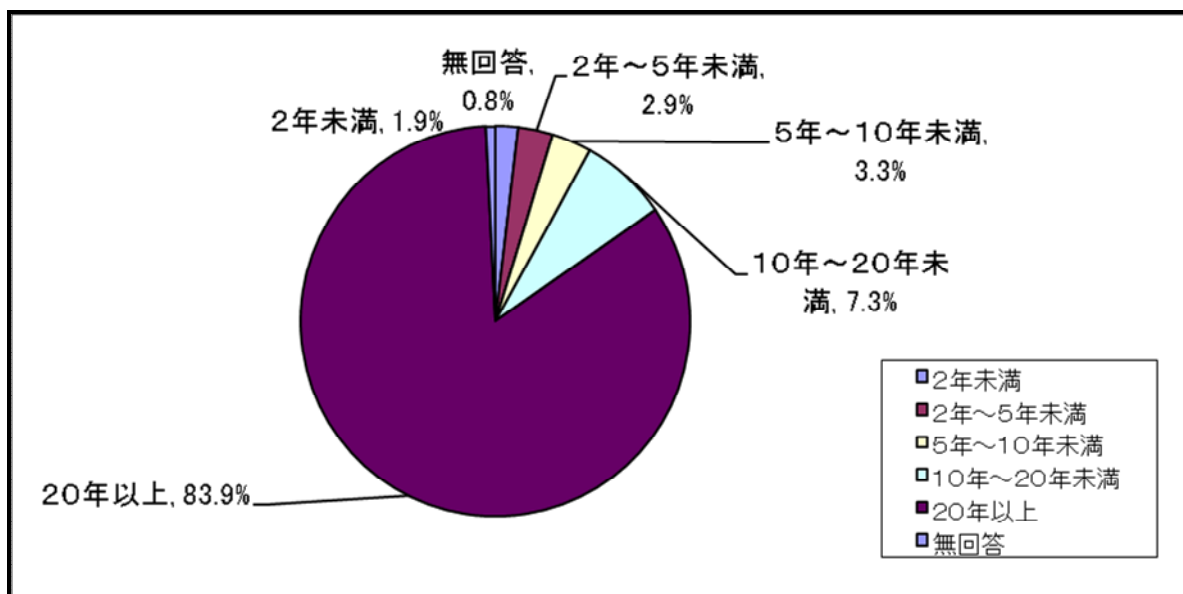
(5)居住地

	地区名	今回結果		前回結果	
		割合	回答者数	割合	回答者数
1	佐伯	15.0%	209	13.7%	217
2	渡町台	10.5%	146	8.3%	132
3	佐伯東	4.6%	64	4.3%	68
4	上堅田	5.1%	71	5.2%	82
5	鶴岡	10.6%	148	11.7%	185
6	大入島	1.1%	15	1.6%	25
7	八幡	3.5%	49	5.0%	79
8	西上浦	1.8%	25	1.7%	27
9	下堅田	3.1%	43	3.1%	49
10	青山	0.6%	9	0.8%	12
11	木立	2.9%	40	2.4%	38
12	上浦	3.1%	43	2.8%	45
13	弥生	9.8%	137	9.4%	148
14	本匠	2.0%	28	2.9%	46
15	宇目	5.7%	79	4.7%	75
16	直川	3.5%	49	4.4%	70
17	鶴見	5.1%	71	4.8%	76
18	米水津	2.3%	32	2.6%	41
19	蒲江	8.9%	124	9.9%	156
20	無回答	0.7%	10	0.6%	10
	合計		1,392		1,581

○前回との比較

それぞれの地区が占める割合については、多少の増減はみられるが、全体的にはほとんど変わらない回答結果となった。

(6) 居住年数



○今回結果

20年以上(83.9%)が一番多く、10～20年(7.3%)、5～10年(3.3%)となっている。

○前回結果

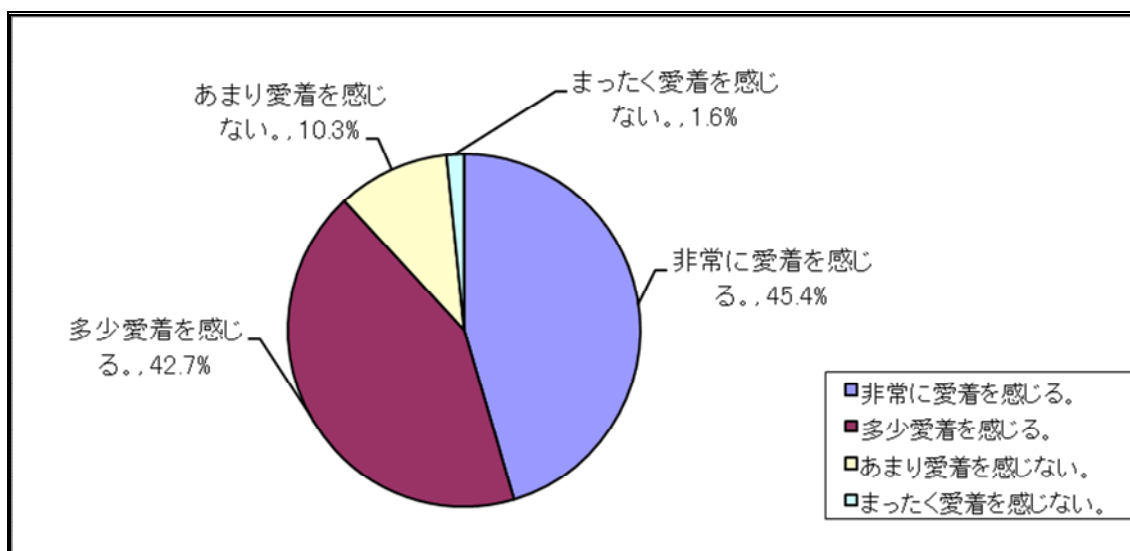
20年以上(84.1%)、10～20年(7.5%)、5～10年(2.8%)

○前回との比較

前回とほとんど変わらない回答結果となった。

3 日常生活での住みやすさについて

(7) 佐伯市に愛着を感じますか



○今回結果

非常に愛着を感じる(45.4%)、多少愛着を感じる(42.7%)となっており、合わせて約88%になっている。

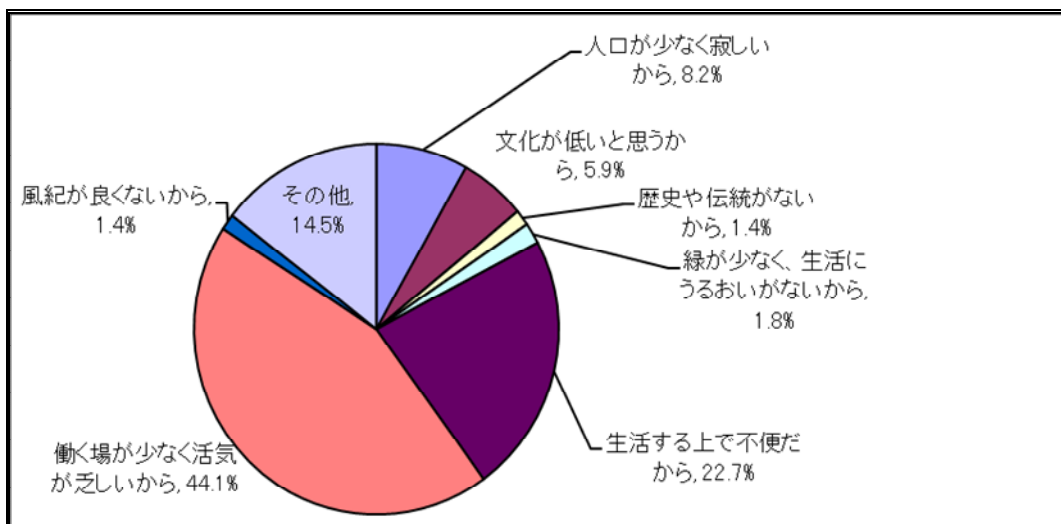
○前回結果

非常に愛着を感じる(40.7%)、多少愛着を感じる(45.3%)、あまり愛着を感じない(12.0%)

○前回との比較

愛着を感じる割合が2.2ポイント増えた。9割近くが本市に愛着を感じている。

(8)佐伯市に愛着を感じない理由として



○今回結果

愛着を感じない理由として、「働く場が少なく活気が乏しいから」(44.1%)が一番多く、「生活する上で不便だから」(22.7%)、「人口が少なく寂しいから」(8.2%)、「文化が低いと思うから」(5.9%)となっている。

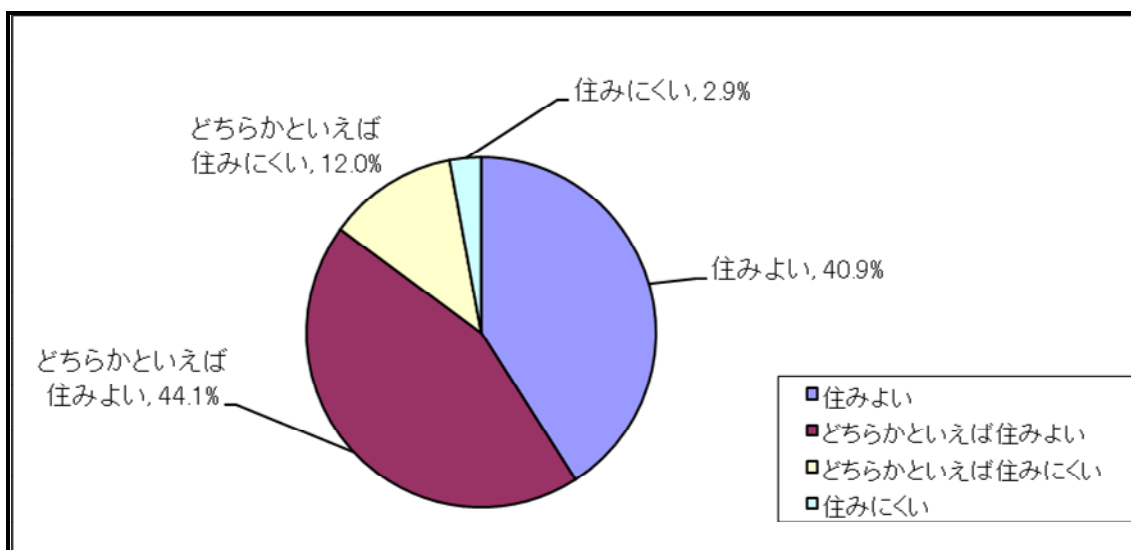
○前回結果

「働く場が少なく活気が乏しいから」(49.0%)、「生活する上で不便だから」(19.5%)、「人口が少なく寂しいから」(6.1%)、「文化が低いと思うから」(6.1%)

○前回との比較

「働く場が少なく活気に乏しいから」が4.9ポイント減ったが、「生活する上で不便だから」3.2ポイント増えた。

(9)佐伯市は住みよいところか



○今回結果

「どちらかといえば住みよい」(44.1%)が一番多く、「住みよい」(40.9%)となっており、合わせて85.0%になっている。

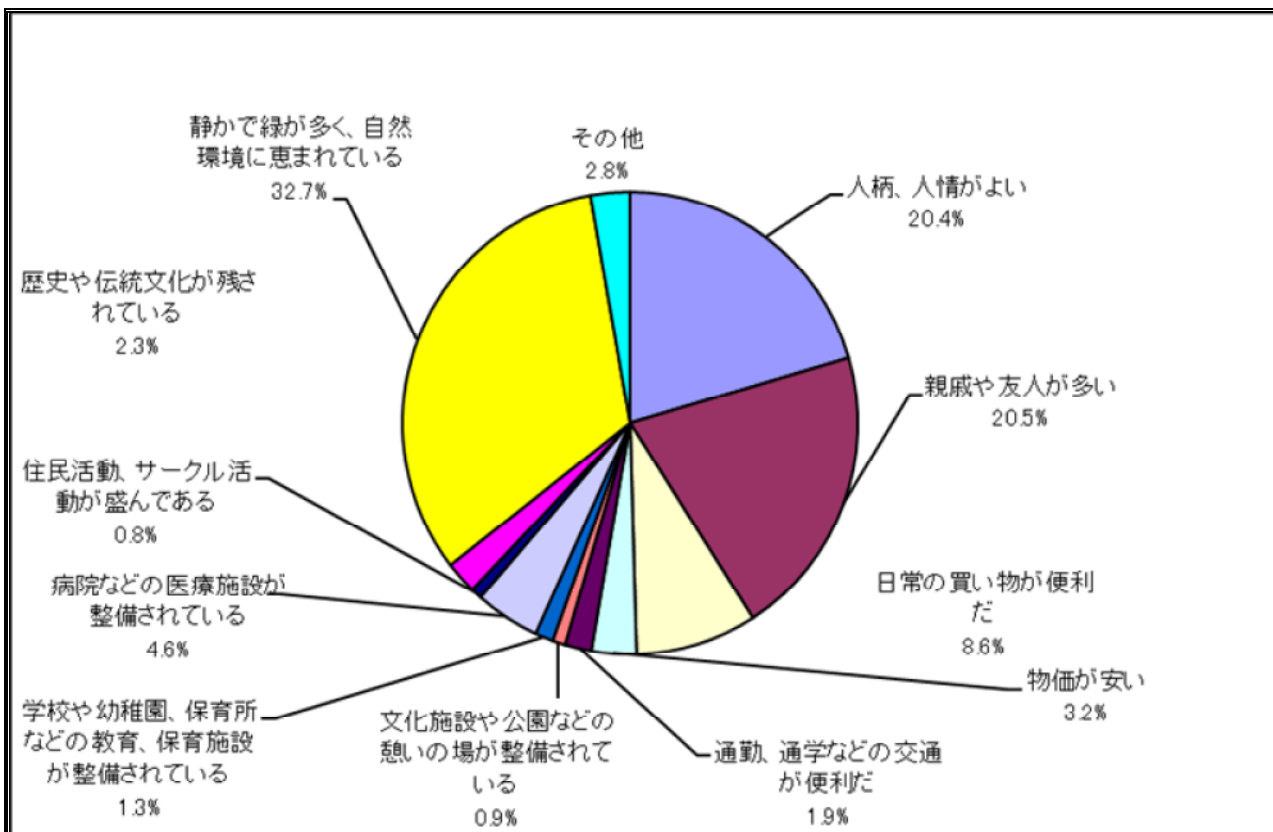
○前回結果

「どちらかといえば住みよい」(47.1%)、「住みよい」(35.9%)、「どちらかといえば住みにくい」(13.7%)

○前回との比較

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」をあわせると、2ポイント上昇した。

(10)佐伯市が住みよい理由



○今回結果

「静かで緑が多く自然環境に恵まれている」(32.7%)が一番多く、「親戚や友人が多い」(20.5%)、「人柄、人情がよい」(20.4%)となっている。

○前回結果

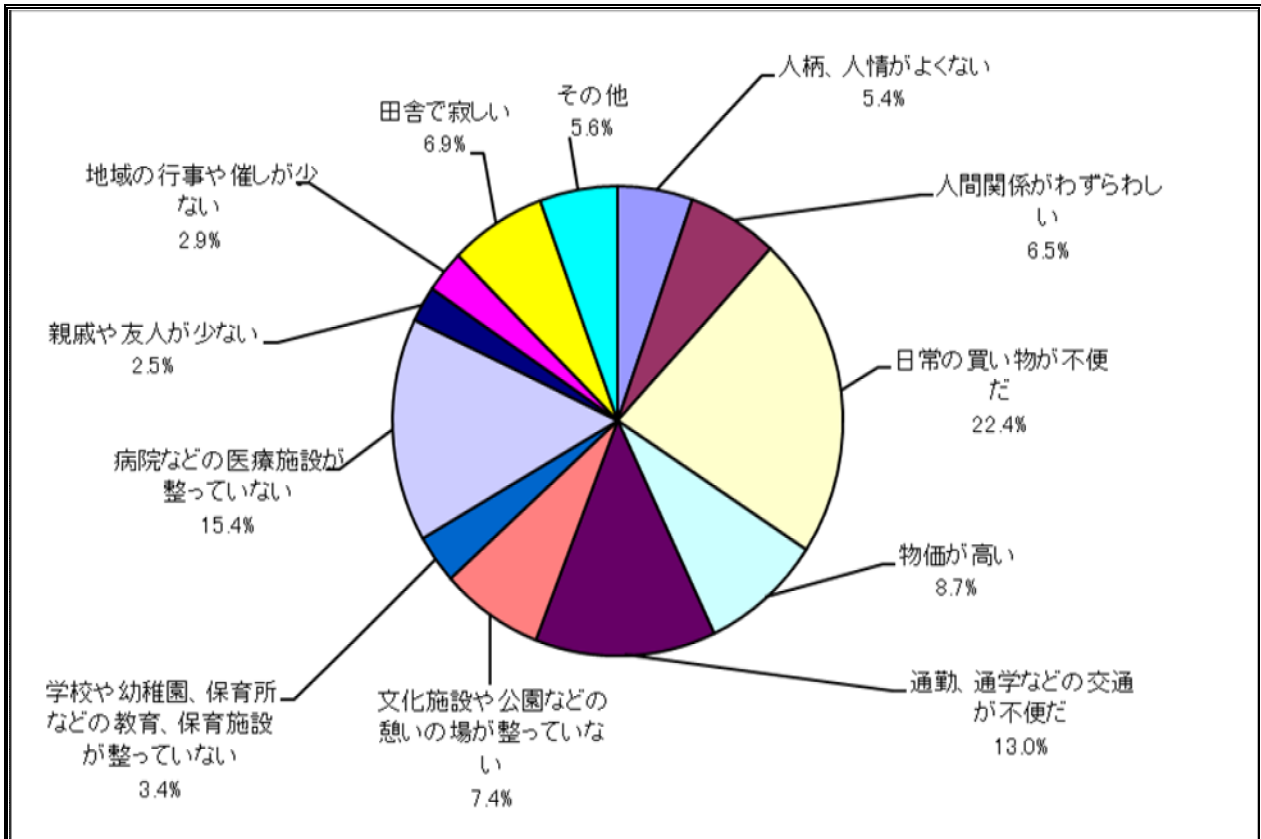
「静かで緑が多く自然環境に恵まれている」(33.9%)、「親戚や友人が多い」(21.0%)、「人柄、人情がよい」(19.7%)

○前回との比較

前回同様、自然に恵まれた環境に加え、温かい人間性を挙げる者が多かった。



(11)住みにくい理由



○今回結果

「日常の買い物が不便」(22.4%)が一番多く、「病院などの医療施設が整っていない」(15.4%)、「通勤、通学などの交通が不便」(13.0%)となっている。

○前回結果

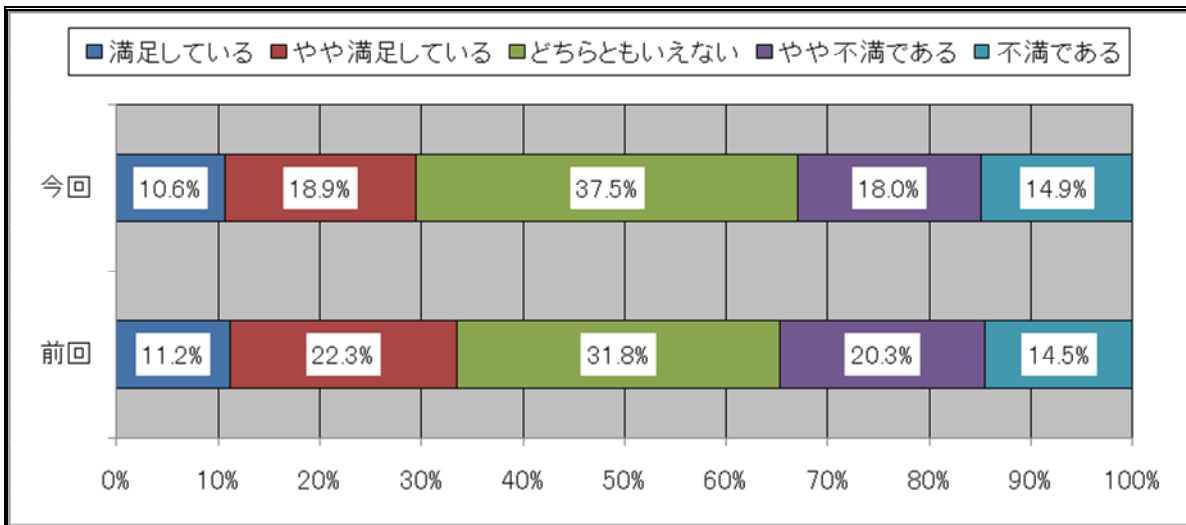
「日常の買い物が不便」(19.0%)、「病院などの医療施設が整っていない」(16.4%)、「通勤、通学などの交通が不便」(14.9%)

○前回との比較

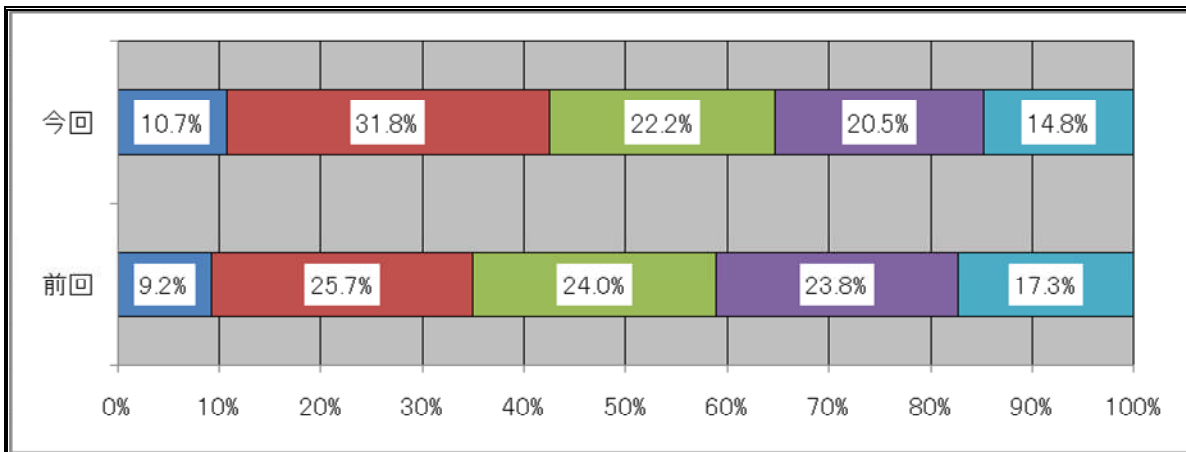
「日常の買い物が不便」のポイントが3.4上がった。(8)項でも本市に愛着を感じない理由として「生活するうえで不便」のポイントが上昇したと連動していると思われる。

(12)佐伯の状況を評価

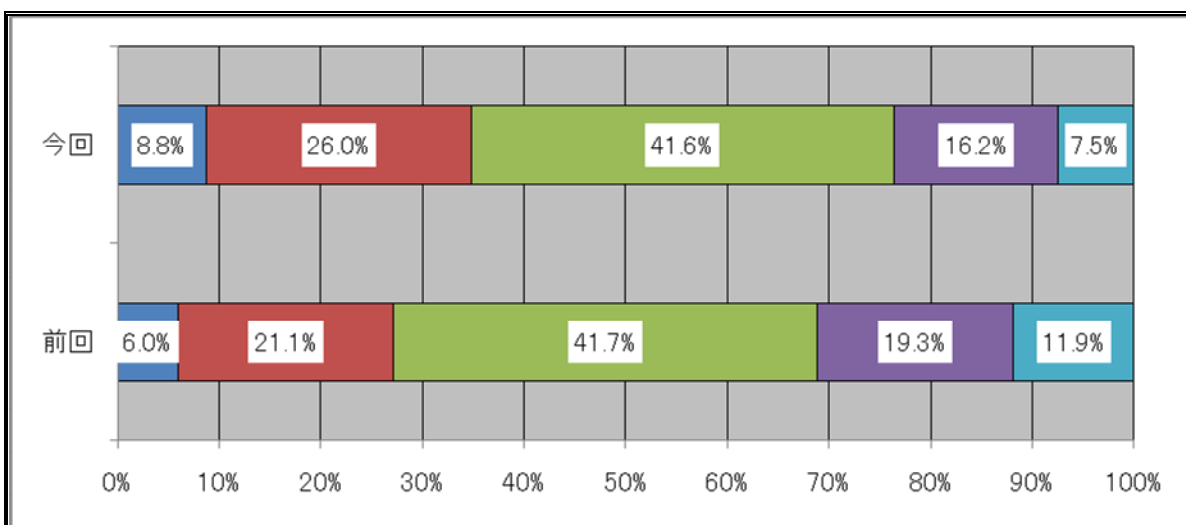
ア 洪水、地滑り等の自然災害からの安全性



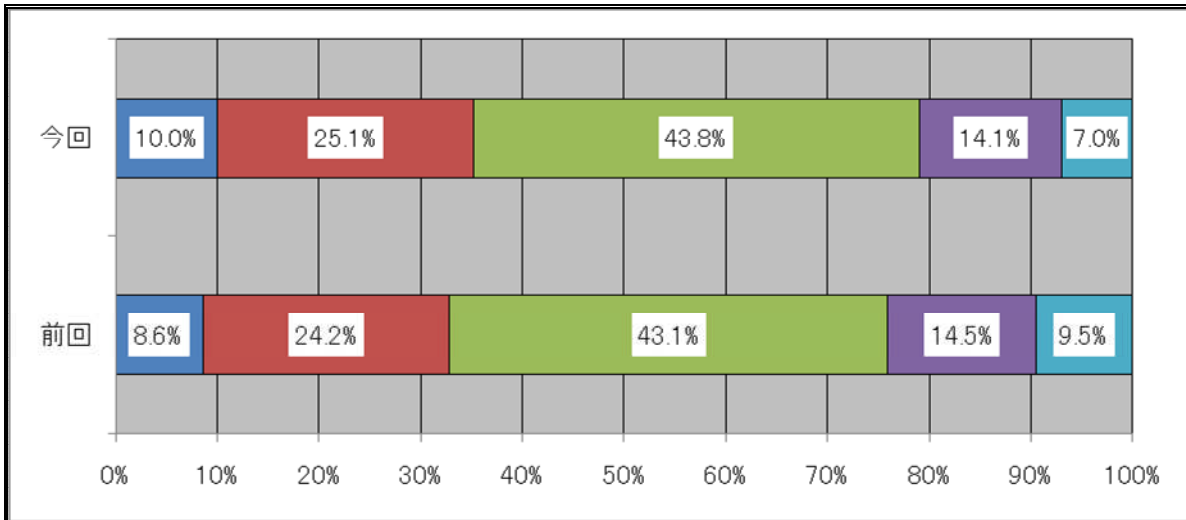
イ 道路の整備(歩道、舗装、改良等)



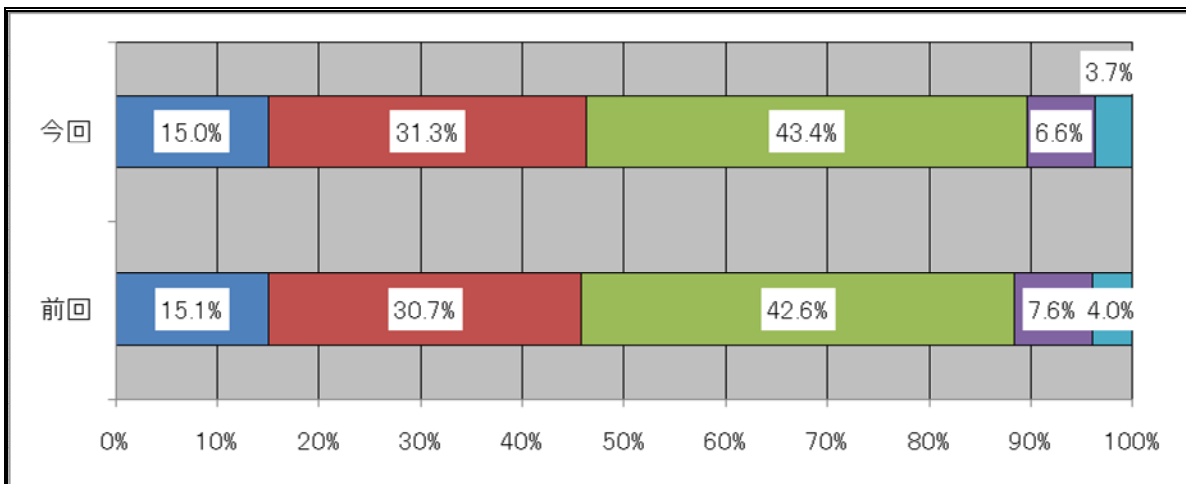
ウ 子どもの遊び場の整備状況 (公園、広場等)



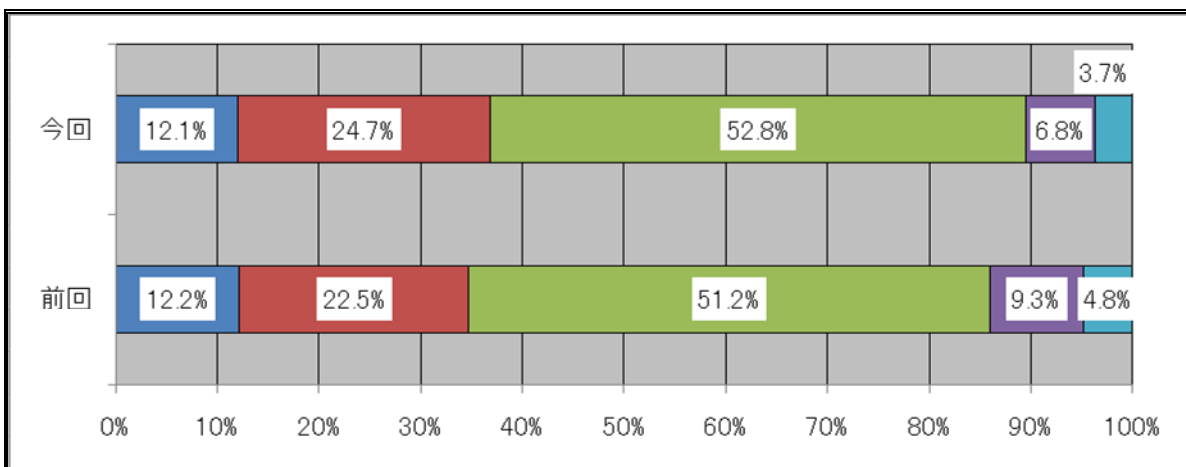
エ 文化施設の整備状況(図書館、博物館、ホール等)



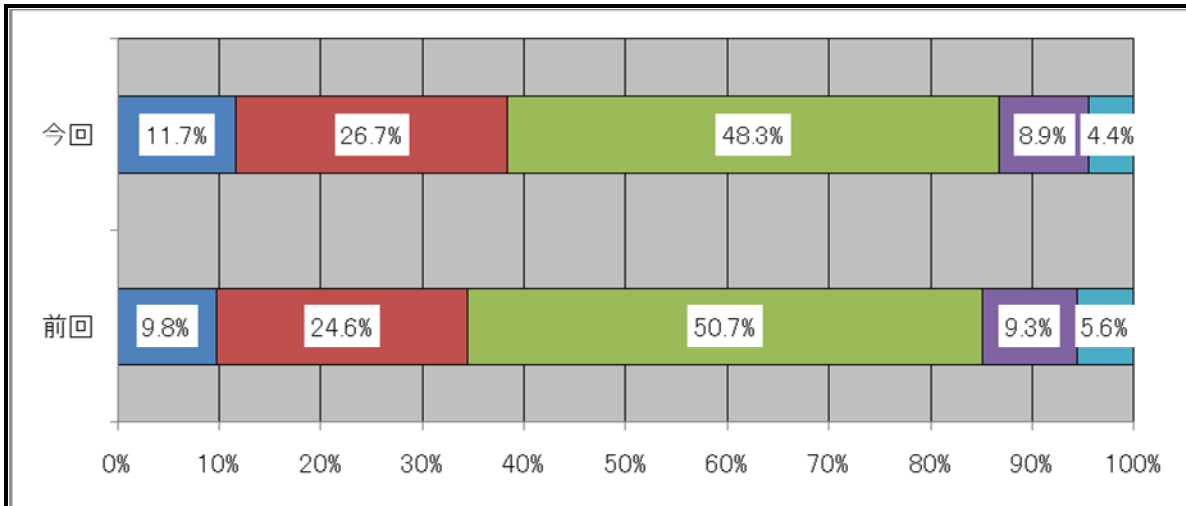
オ 教育施設の整備状況(小・中学校、幼稚園等)



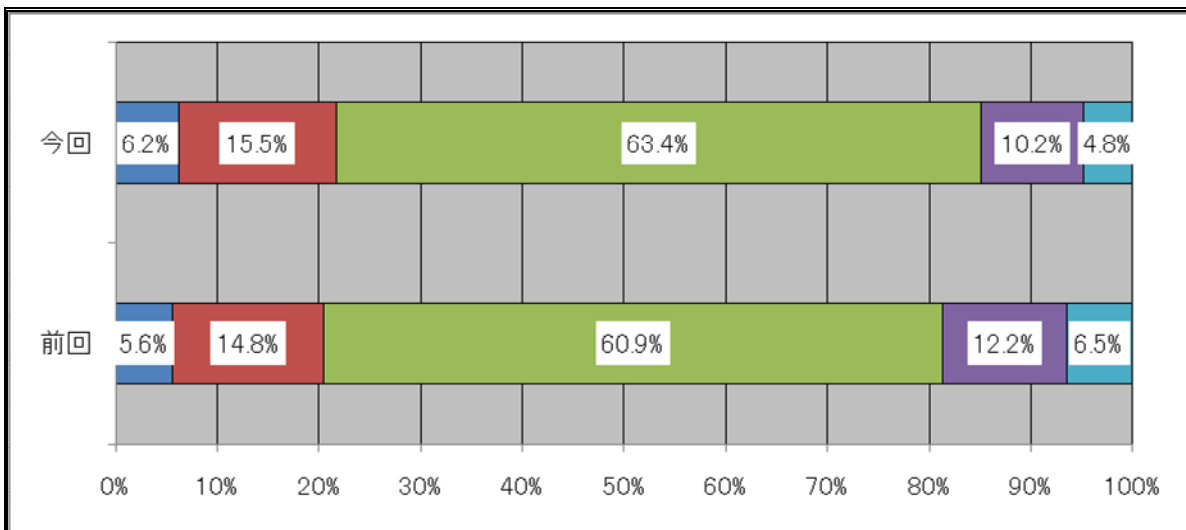
カ 高齢者福祉施設の整備状況(グラウンドゴルフ等)



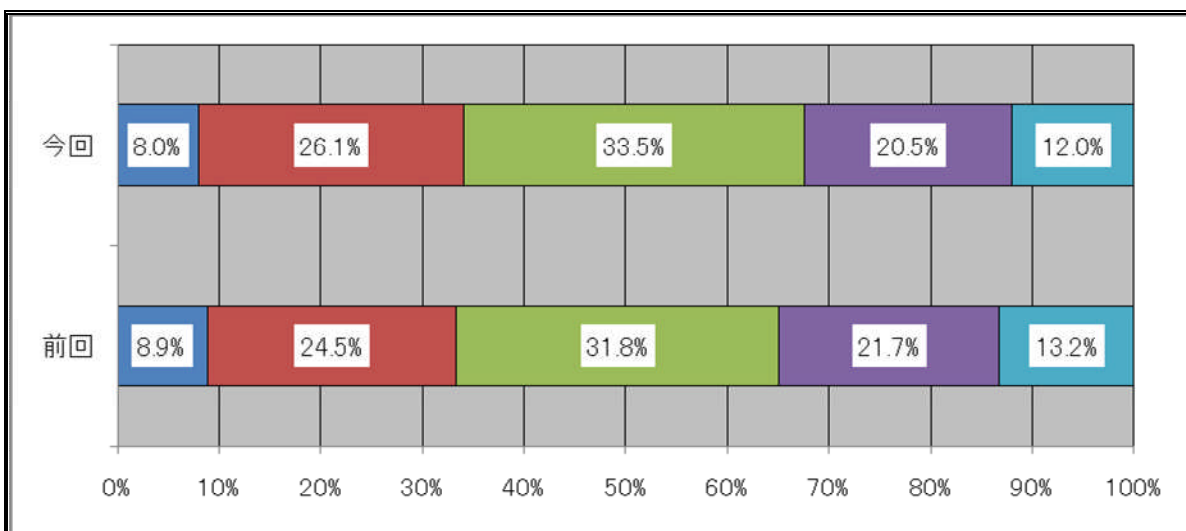
キ 児童福祉施設(保育所、児童館等)



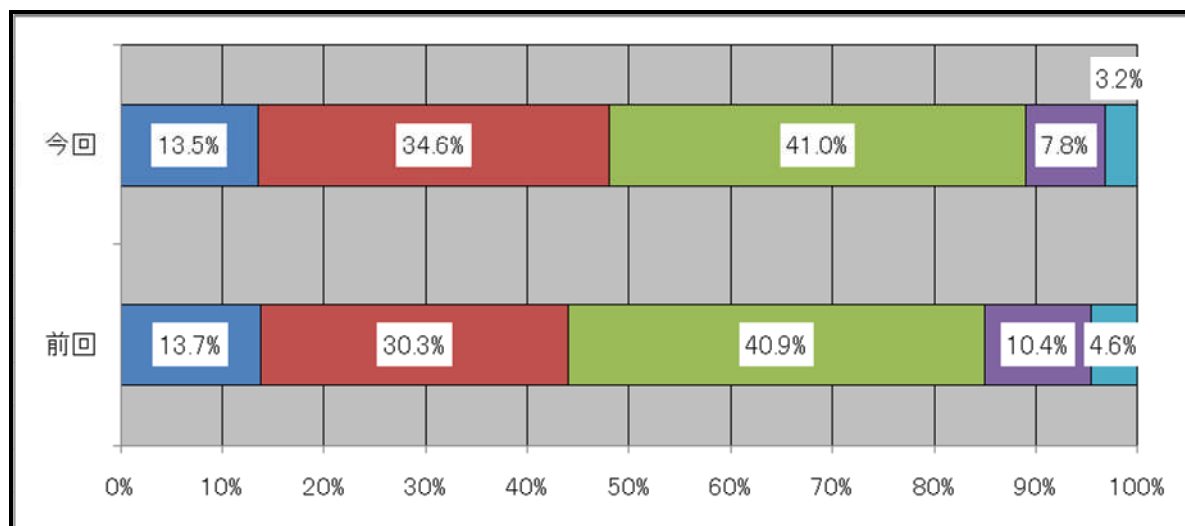
ク 障がい者施設(通所授産所施設等)



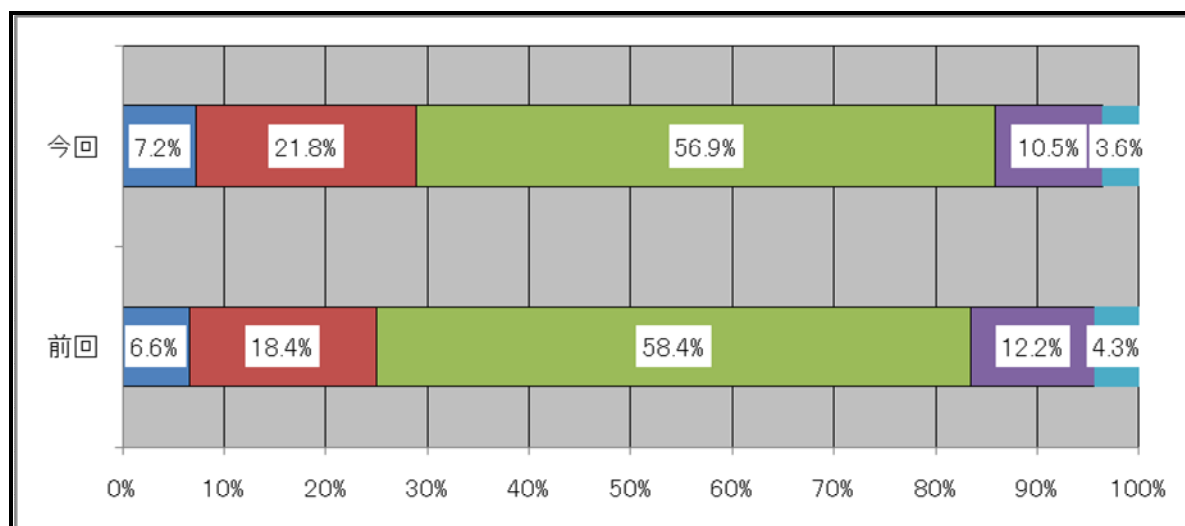
ケ 医療施設の整備状況(緊急病院、診療所等)



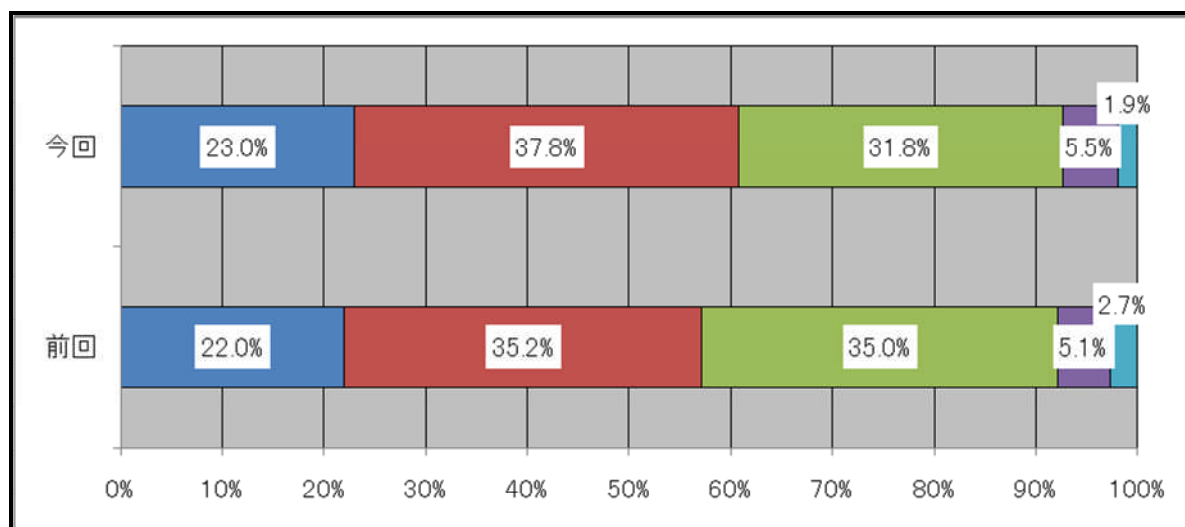
コ スポーツ施設の整備状況(体育館、運動場、プール等)



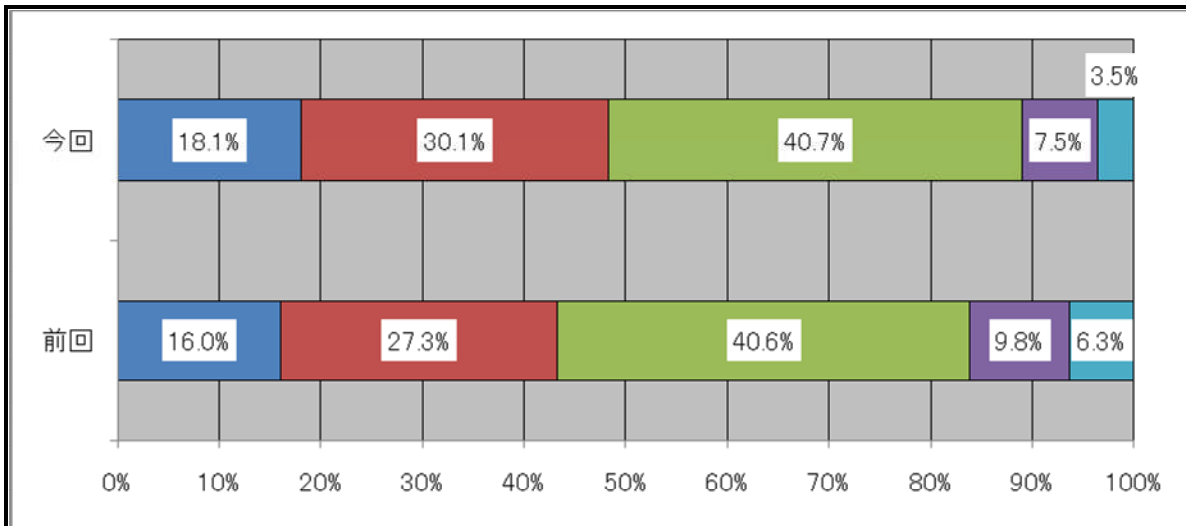
サ レクリエーション施設(キャンプ場等)



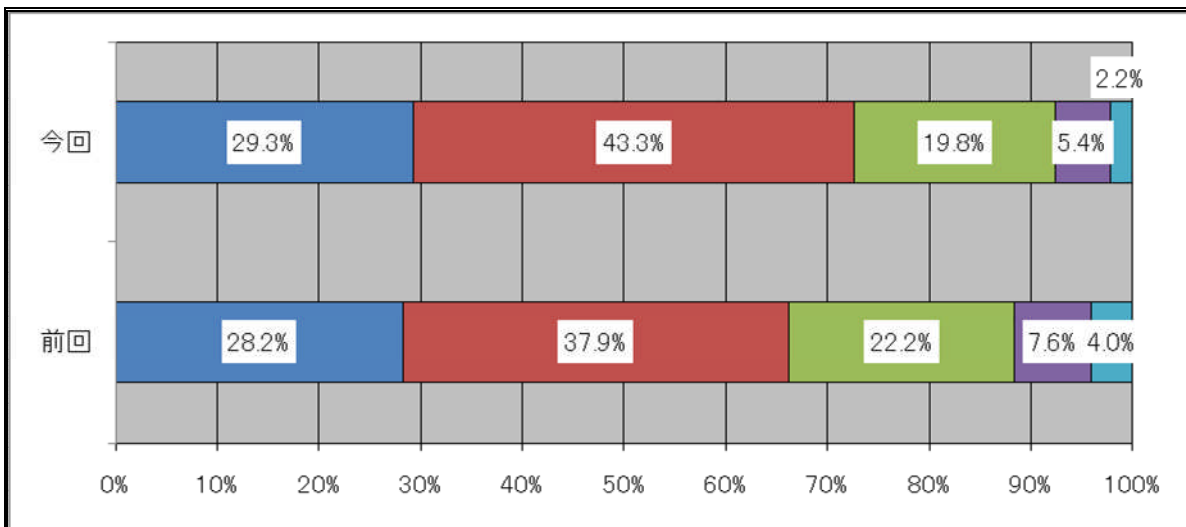
シ 水道施設(上水道、簡易水道等)



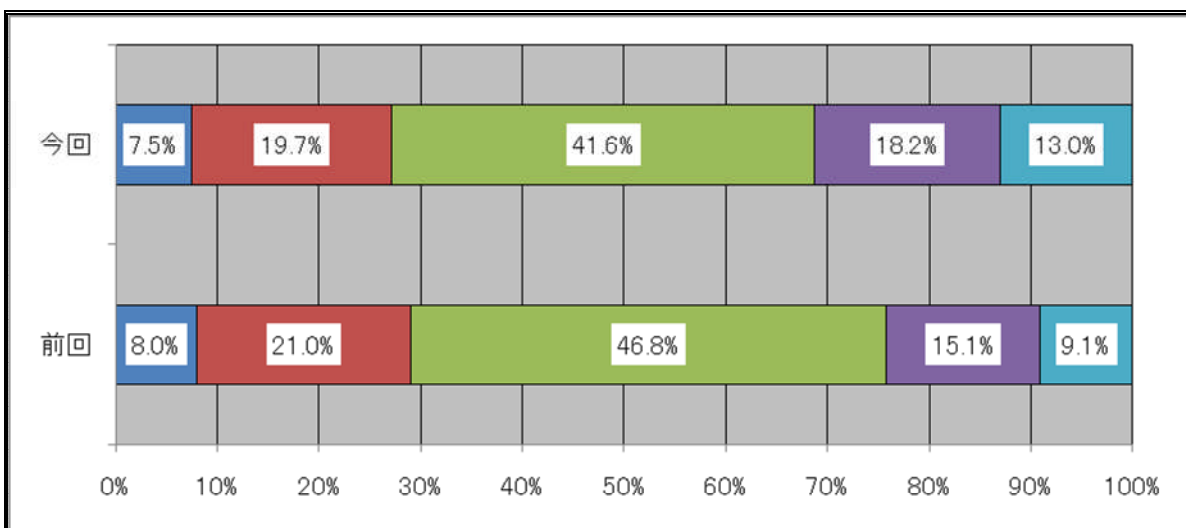
ス し尿処理施設(下水道、合併浄化槽等)



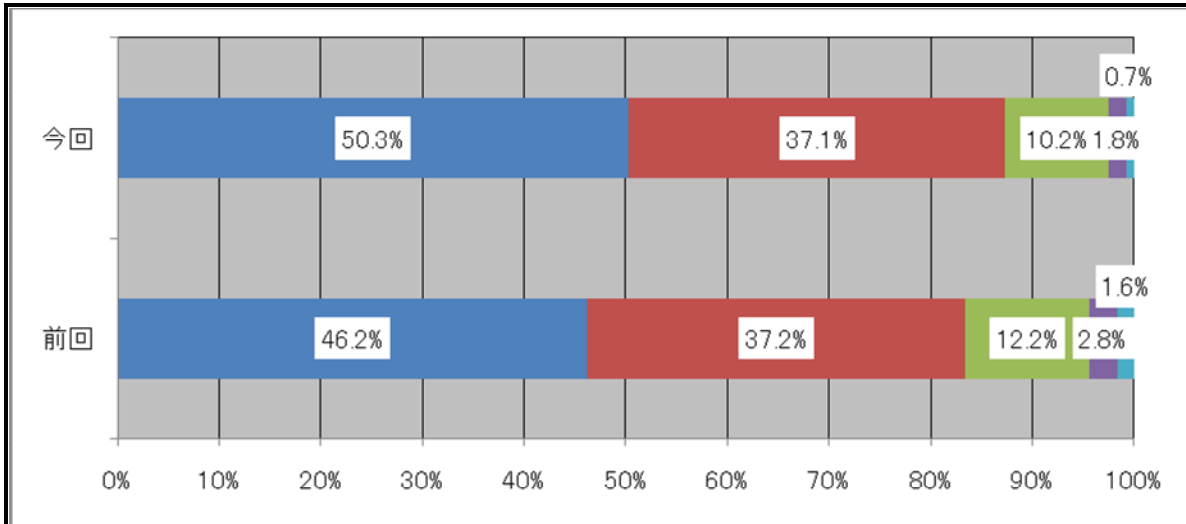
セ ごみの回収、処理



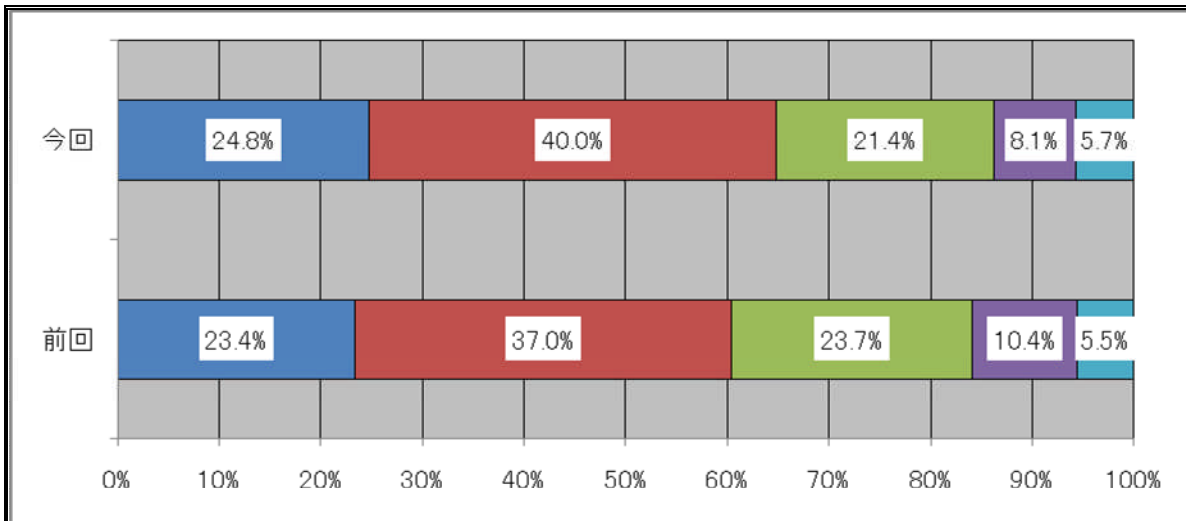
ソ 防災施設の整備(消防、避難所、防災無線等)



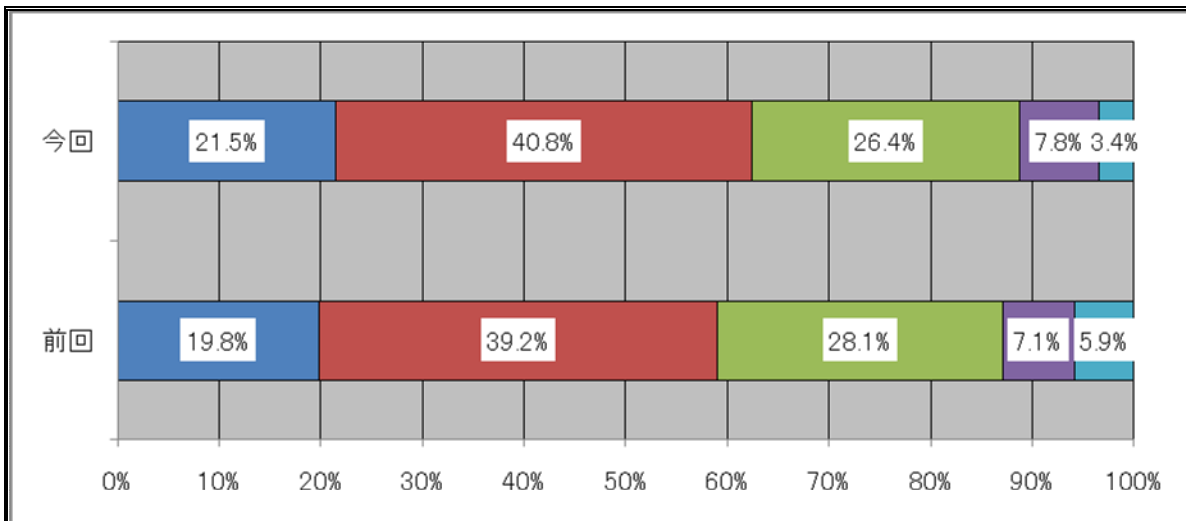
タ 緑の豊かさ



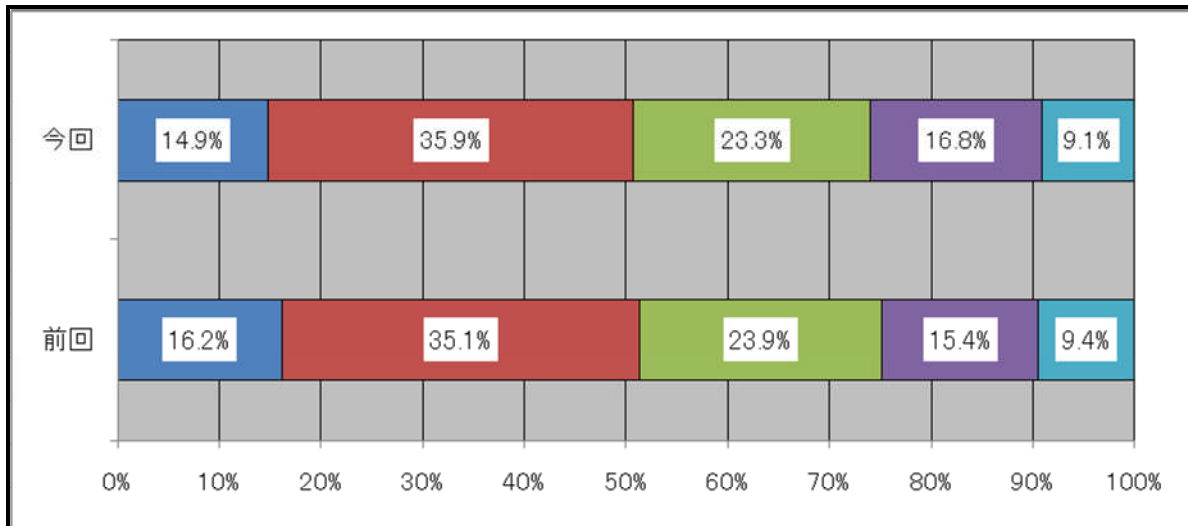
チ 河川のきれいさ



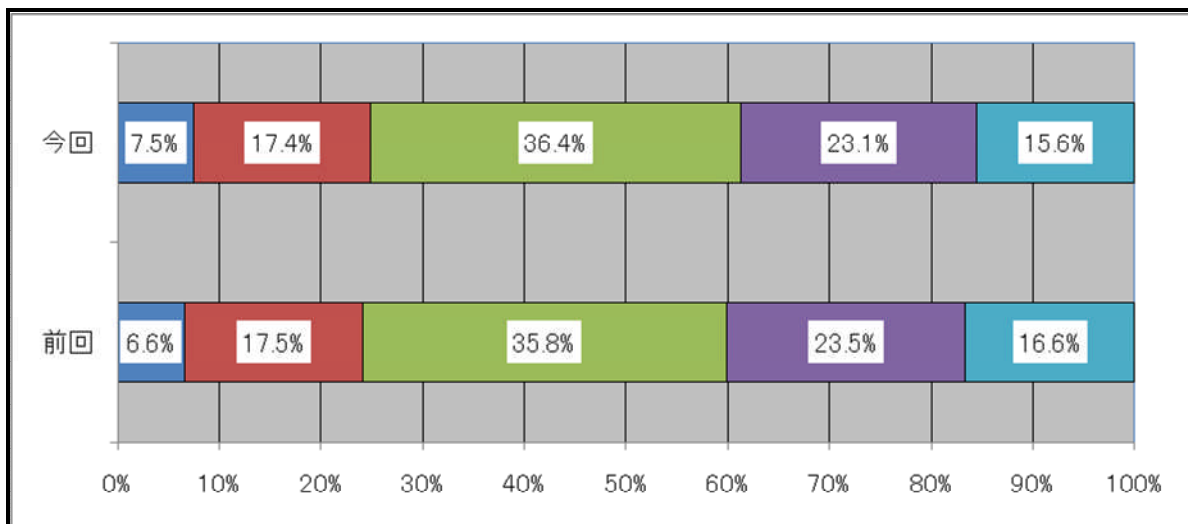
ツ その他周辺の環境(空気の汚れ、騒音、悪臭等)



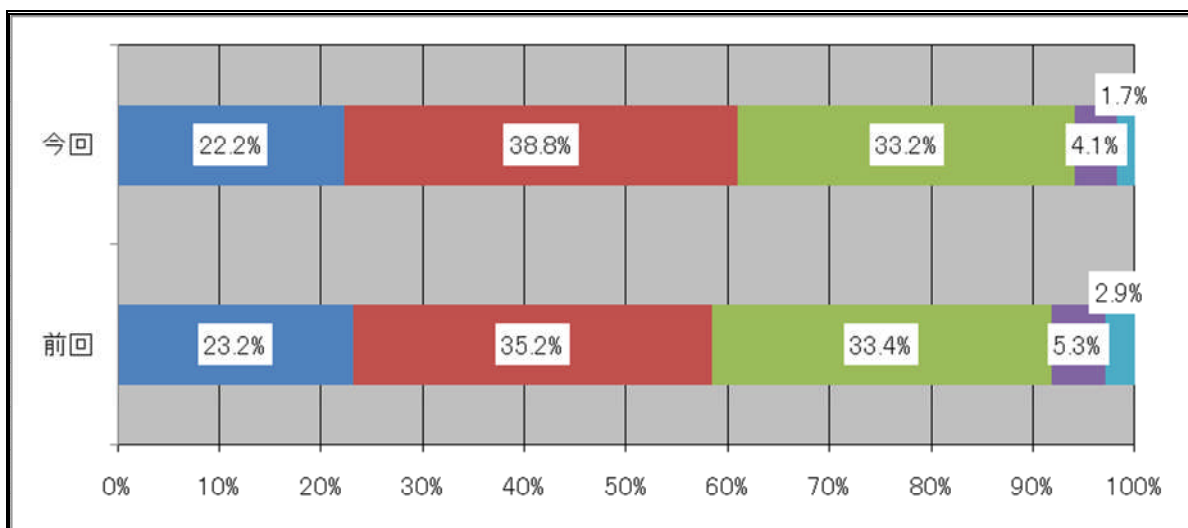
テ 日常の買い物の便利さ



ト バス、JR等の便利さ(公共交通機関の利便性)

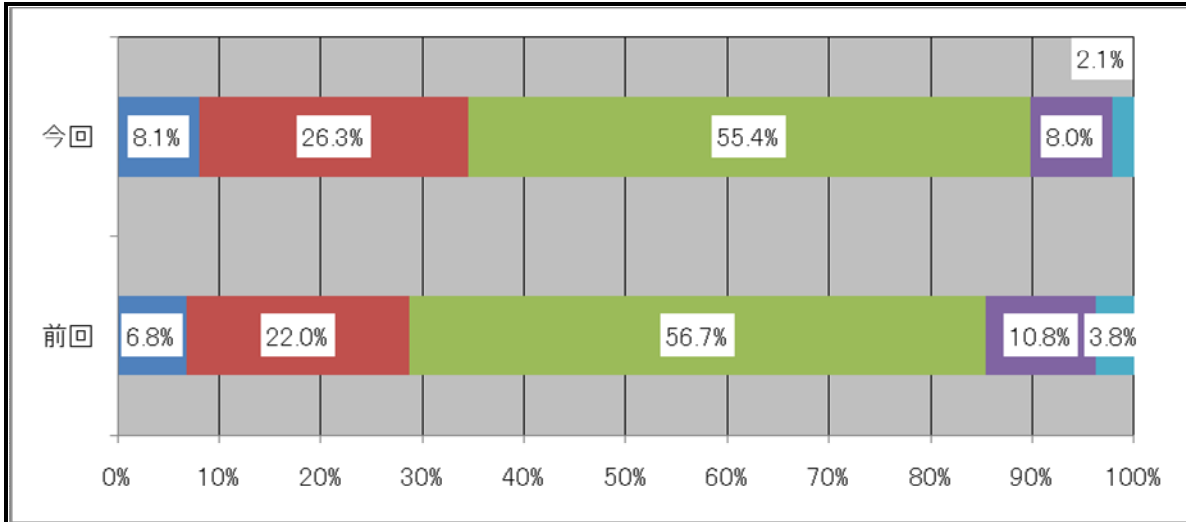


ナ 隣近所のつきあい





## 二 青少年に対する社会環境・風紀

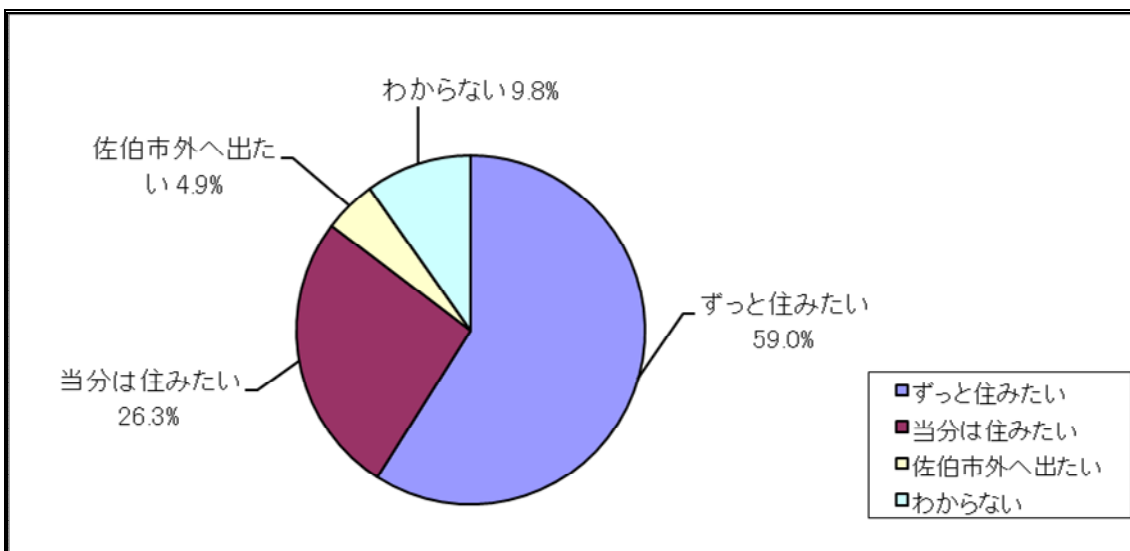


### ○回答結果について

佐伯市の状況を 22 項目にわたり、満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満の 5 段階に分けて設問したところ、前回に比べ 20 項目で「不満・やや不満」の割合が減少した。特に「道路の整備」「こどもの遊び場の整備状況」「青少年に対する社会環境・風紀」の分野では「満足・やや満足」の割合が大きく伸びた。一方、「防災施設の整備」と「日常の買い物の便利さ」の項目では「不満・やや不満」の占める割合が増えた。「防災施設の整備」については、東日本大震災における津波被害を受けて、避難路及び避難所の見直しを求める声が反映されたものと考えられる。「日常の買い物の便利さ」については、高齢化による自動車運転免許証の返納や公共交通機関の路線・便数の縮小などが要因と考えられる。

なお、この項目に寄せられた市民の意見については、別途一覧表に掲載。

### (13) これからも佐伯市に住むか



### ○今回結果

「ずっと住みたい」(59.0%)が一番多く、「当分は住みたい」(26.3%)、「佐伯市外へ出たい」(4.9%)となっている。

### ○前回結果

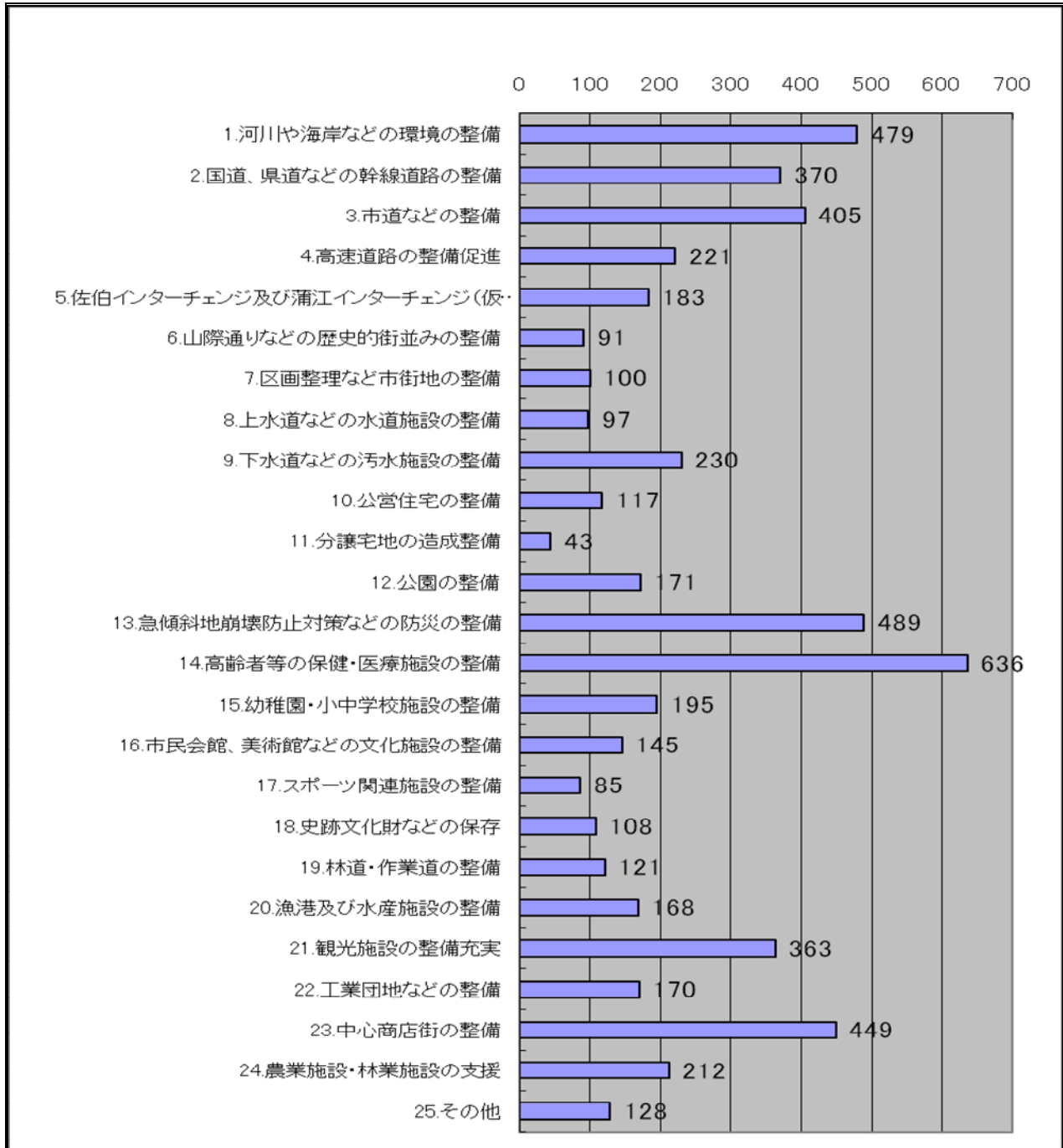
「ずっと住みたい」(56.6%)、「当分は住みたい」(26.6%)、「佐伯市外へ出たい」(6.0%)

○前回との比較

住みたいと答えた割合が2.4ポイント上昇した。この結果は(8)「佐伯市は住みよいところか」との設問結果と同じ傾向を示す。

#### 4 佐伯市の施策について

##### (14) 施策の中で特に力を入れるべきものはどれか(ハード事業)



○今回結果

回答の多い順に①「高齢者等の保健・医療施設の整備」、②「急傾斜地崩壊防止対策などの防災の整備」、③「河川や海岸などの環境の整備」、④「中心商店街の整備」、⑤「市道などの整備」となっている。

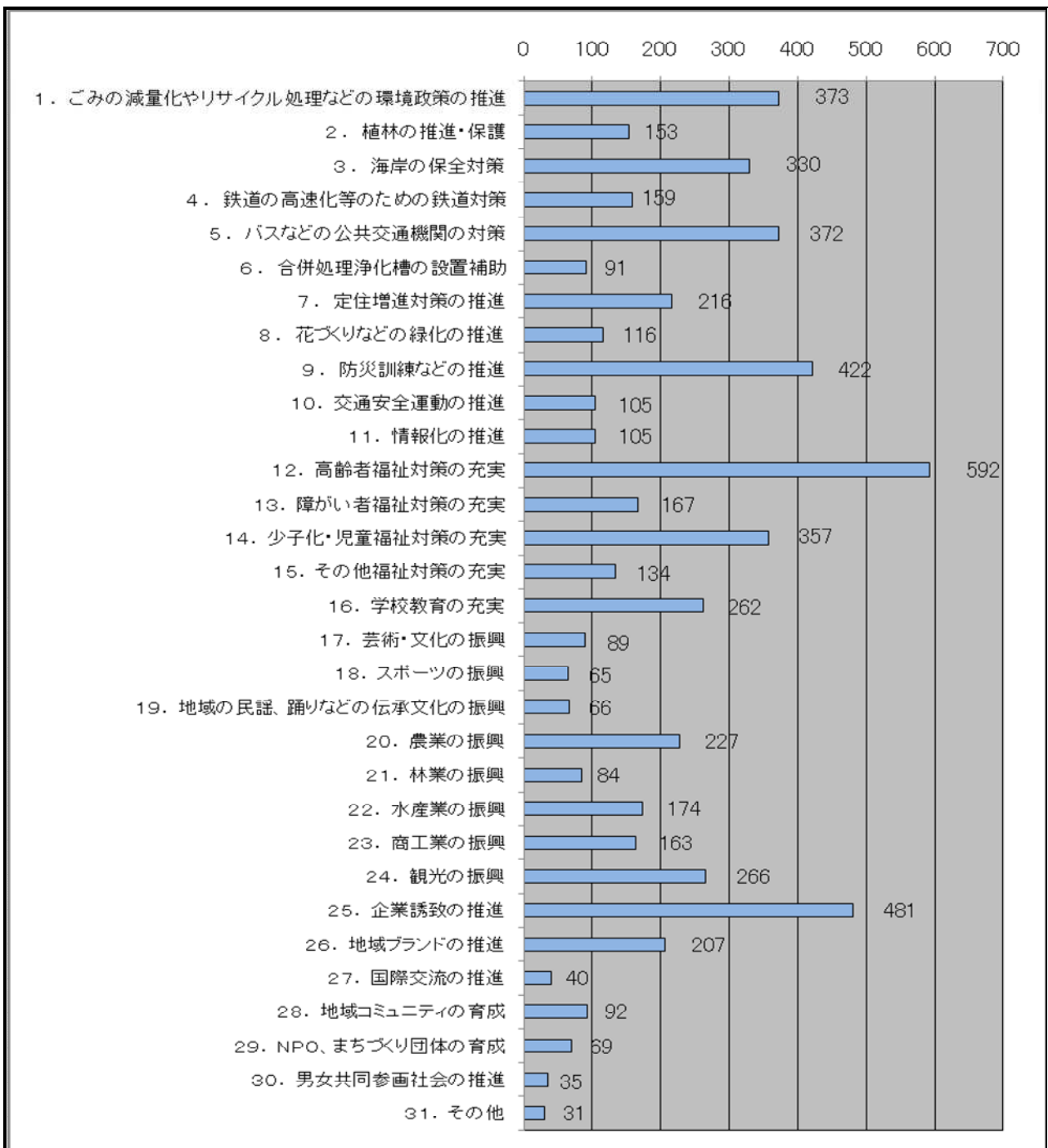
○前回結果

①「高齢者等の保健・医療施設の整備」、②「河川や海岸などの環境の整備」、③「市道などの整備」、④「国道、県道などの幹線道路の整備」、⑤「中心商店街の整備」

○前回との比較

施設整備で特に力を入れるべきもののトップは、前回同様「高齢者等の保健・医療施設の整備」が挙げられた。本市の高齢化率が30%を超えるなか、当然の結果であろう。2番に「急傾斜地崩壊防止対策などの防災の整備」が続いた。前回、上位5番に入らなかった項目であり、本アンケート「(12)佐伯市の状況評価」中「ソ 防災施設の整備」の項で「不満・やや不満」の割合が増加したと相関する結果となった。東日本大震災の被災状況を目の当たりにし、市民が防災に関心を強く持ったことの結果であろう。一方、「市道などの整備」、「国道・県道などの幹線道路の整備」が順位を下げた。これは先の「(12)佐伯市の状況評価」中「イ 道路の整備」の項で「満足・やや満足」の割合が大きく伸びたことと関係が深いと思われる。

(15) 施策の中で特に力を入れるべきものはどれか(ソフト事業)



○今回結果

回答の多い順に①「高齢者福祉対策の充実」、②「企業誘致の推進」、③「防災訓練などの推進」、④「ごみの減量化やリサイクル処理など環境施策の推進」、⑤「バスなどの公共交通機関の対策」となっている。

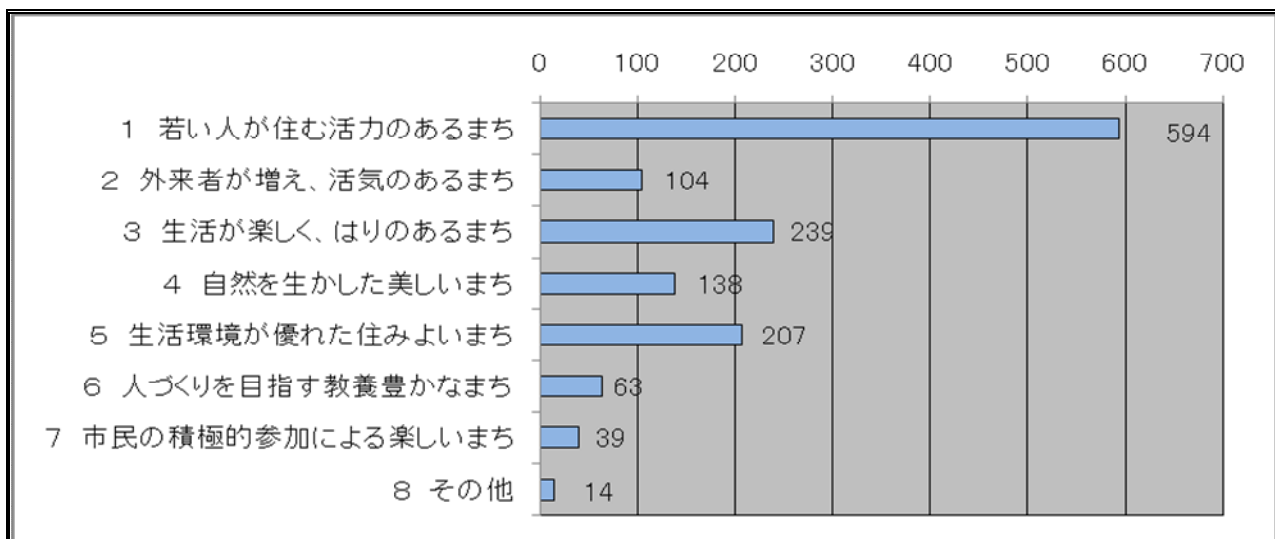
○前回結果

①「高齢者福祉対策の充実」、②「ごみの減量化やリサイクル処理など環境施策の推進」、③「企業誘致の推進」、④「少子化・児童福祉対策の充実」⑤「バスなどの公共交通機関の対策」

○前回との比較

「高齢者福祉対策の充実」、「企業誘致の推進」、「ごみの減量化やリサイクル処理など環境施策の推進」の3項目は前回同様、上位に位置づけられている。前回、上位5番目までに入らなかった「防災訓練などの推進」が今回は3位となっている。これは「(14)施策の中で力を入れるべきもの(ハード事業)」と同様の傾向となった。「バスなどの公共交通機関の対策」が引き続いて上位に位置しているのは、これまで住みにくさの理由として高い割合であげられた「日常の買い物が不便」、「通勤、通学が不便」の裏返しと考えられる。

(16)佐伯市のまちづくりで重視するもの



○今回結果

回答の多い順に①「若い人が住む活力のあるまち」、②「生活が楽しく、はりのあるまち」、③「生活環境が優れた住みよいまち」となっている。

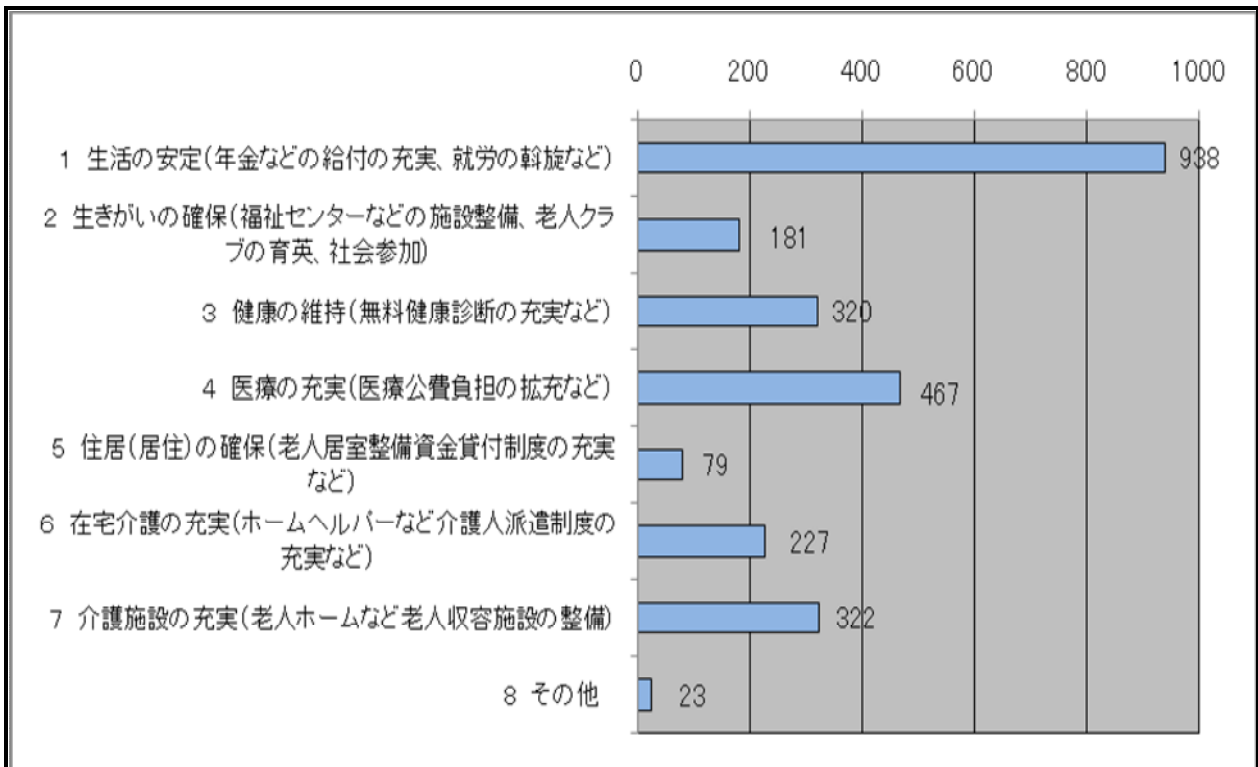
○前回結果

①「若い人が住む活力のあるまち」、②「生活が楽しく、はりのあるまち」、③「生活環境が優れた住みよいまち」

○前回との比較

上位3項目以外も前回と同じ回答結果であった。

(17) 老後、行政に何を期待するか



○今回結果

回答の多い順に①「生活の安定」、②「医療の充実」、③「介護施設の充実」となっている。

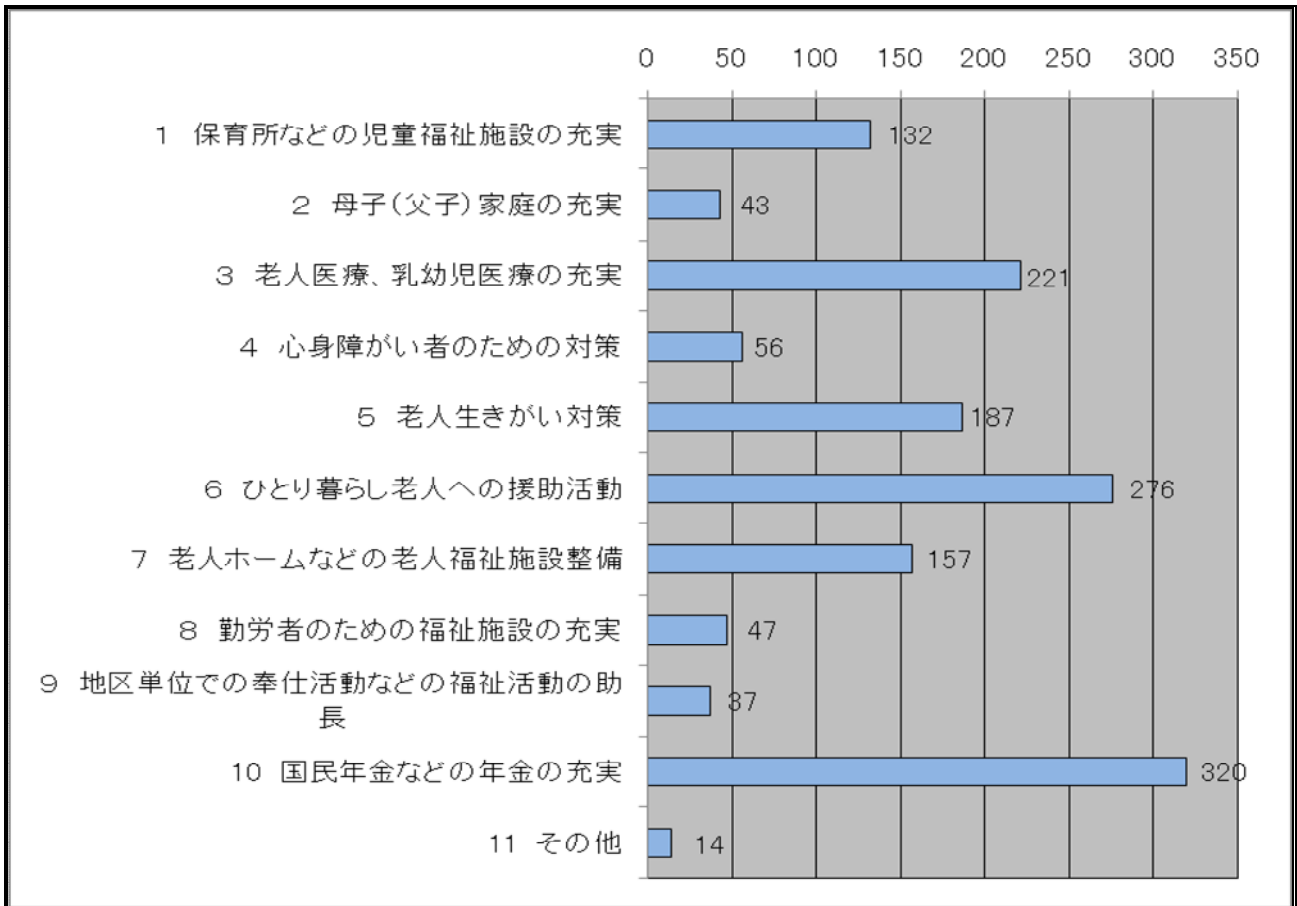
○前回結果

①「生活の安定」、②「医療の充実」、③「健康の維持」

○前回との比較

前回とほとんど変わらない回答結果となったが、介護施設の充実を望む声の順位が上昇した。

(18)福祉サービスについて、あなたは何に力をいれてほしいか。



○今回結果

回答の多い順に①「国民年金などの年金の充実」、②「ひとり暮らし老人への援助活動」、③「老人医療、乳幼児医療の充実」となっている。

○前回結果

①「国民年金などの年金の充実」、②「老人医療、乳幼児医療の充実」、③「ひとり暮らし老人への援助活動」

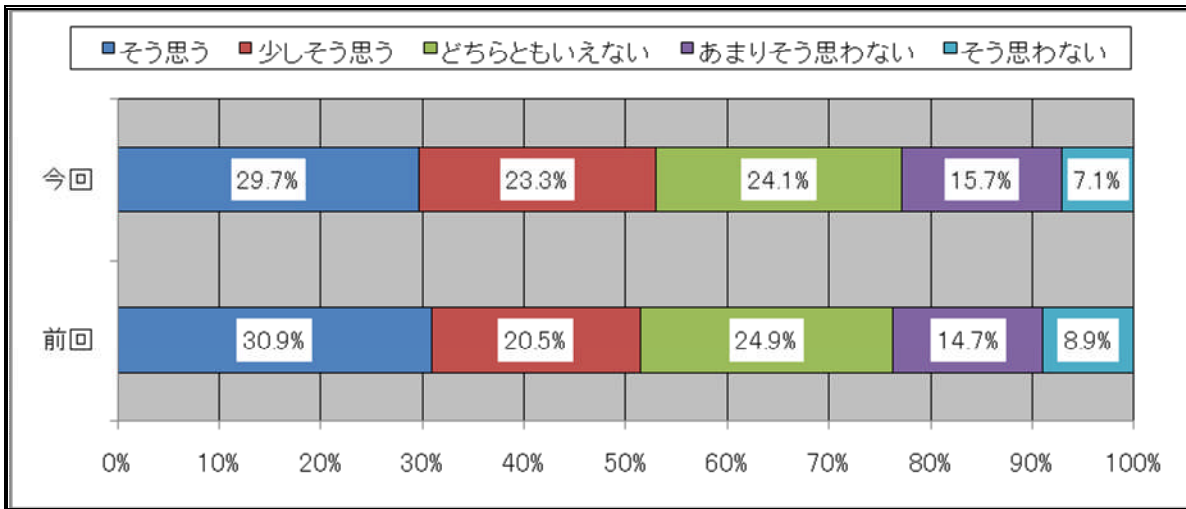
○前回との比較

前回とほとんど変わらない回答結果となった。

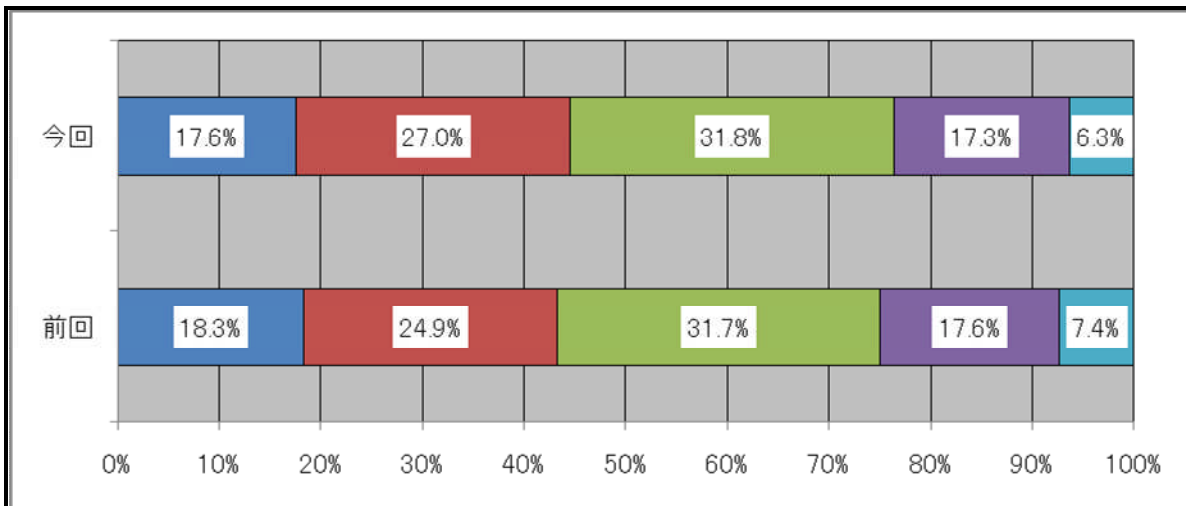
## 5 市役所等について

### (19)市役所と振興局に対する意見

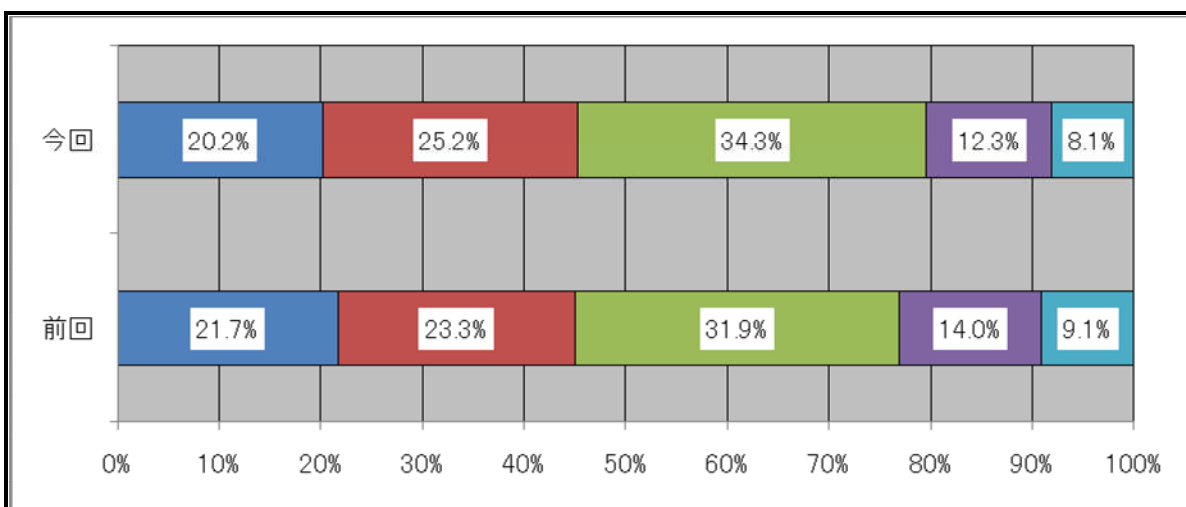
#### ア 気軽に市役所や振興局に行ける



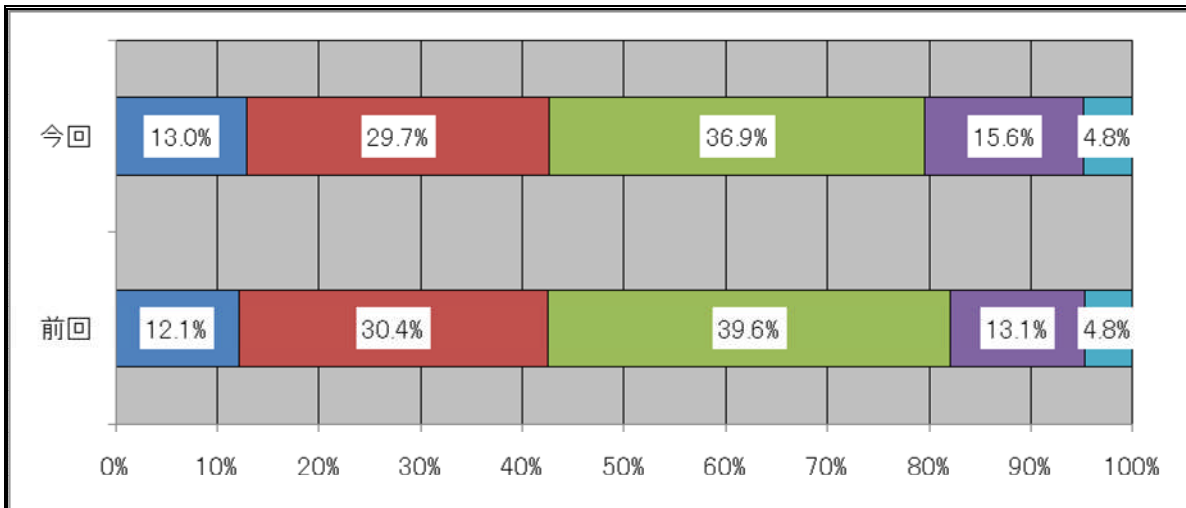
#### イ 窓口、利用したい課・係が分かりやすい



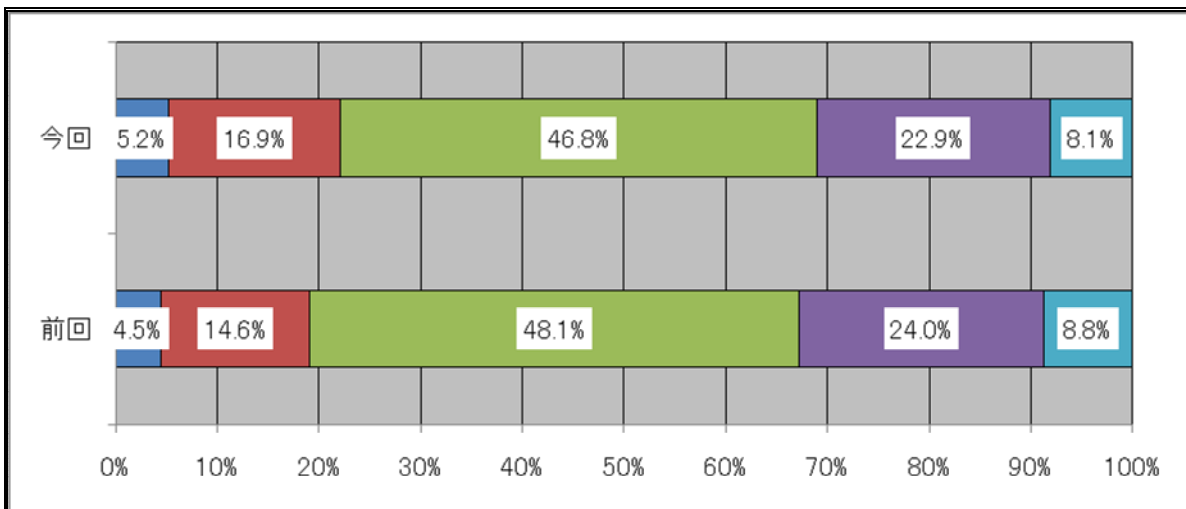
#### ウ 職員の対応が良い



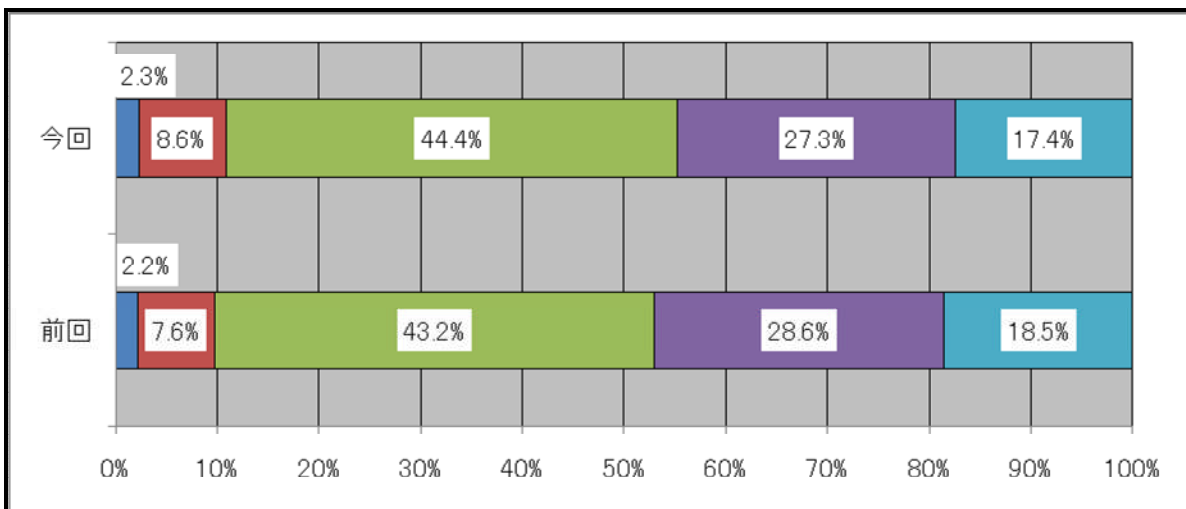
エ 広報やホームページ、CATV等で市政がわかる



オ 知りたい情報が気軽に手に入る

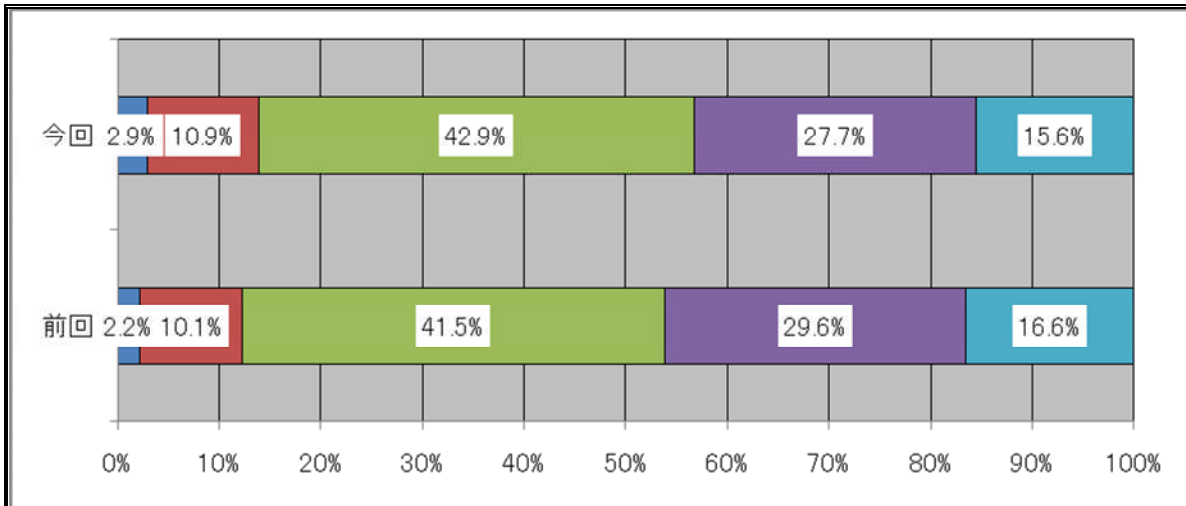


カ 市民の意見が市政に反映されている

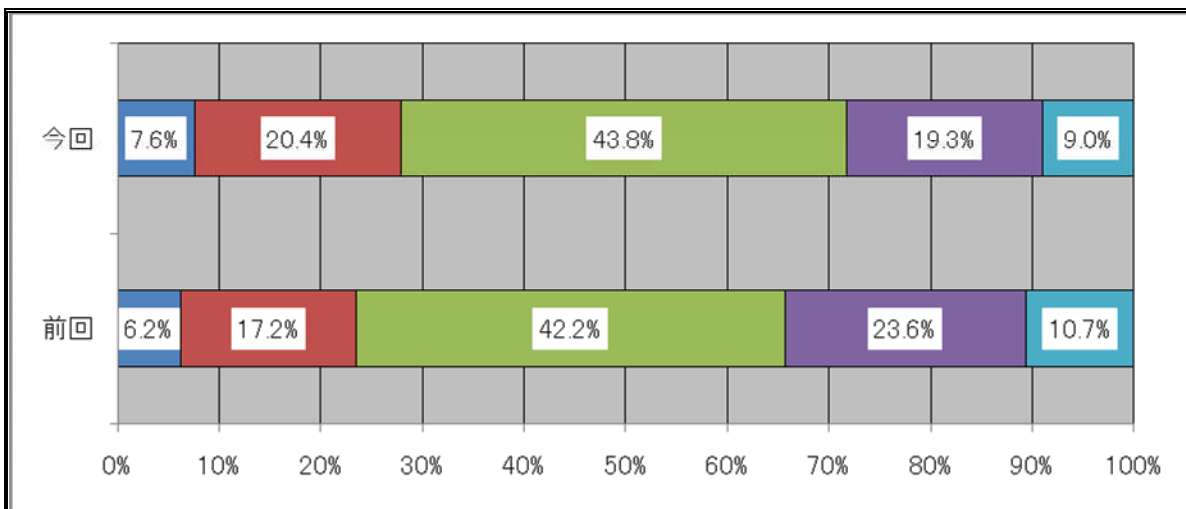




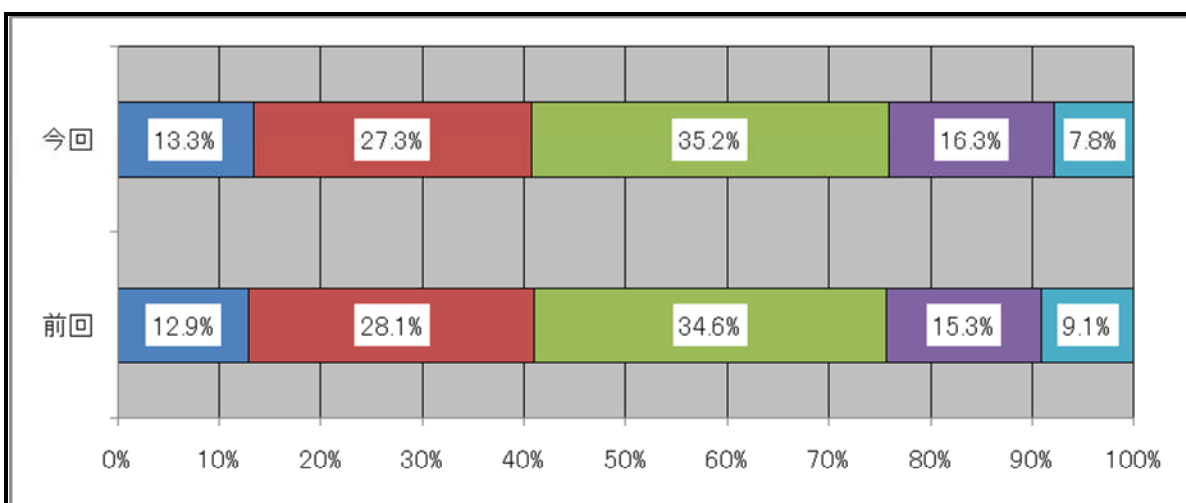
キ まちづくりが計画的に行われている



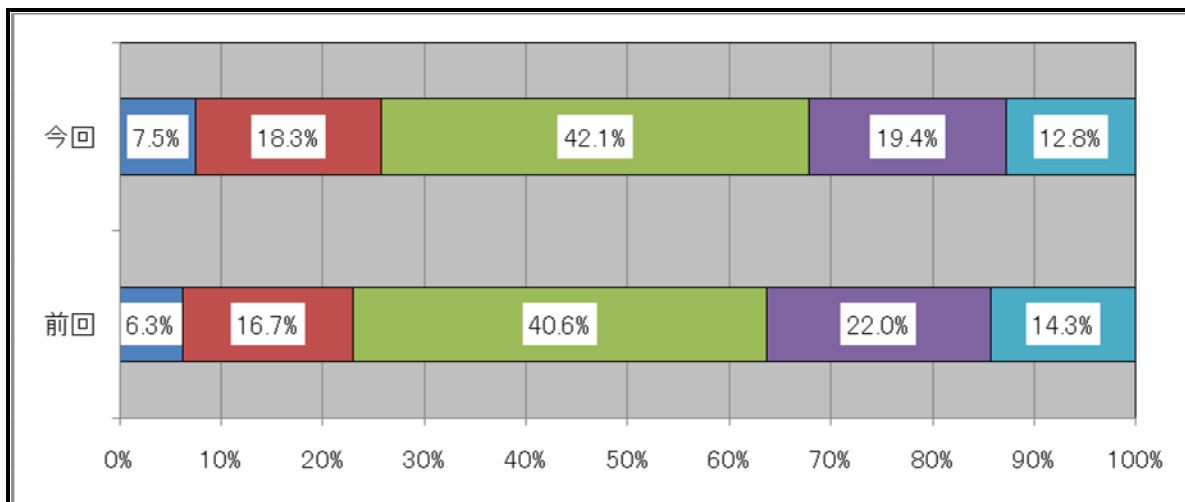
ク 市の施設は利用しやすい



ケ 待たされることなく、事務処理が素早く済む



## コ 全体的に市の行政に満足している

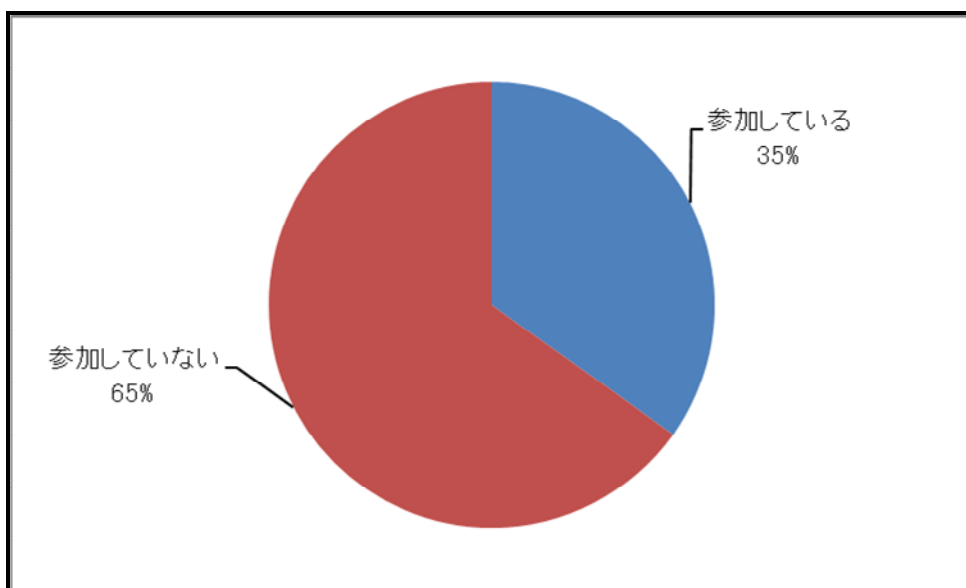


### ○回答結果について

市役所と振興局に対する10項目については、9項目で前向きな評価が増加した。特に「市の施設は利用しやすい」項目に関しては「そう思う・少しそう思う」の割合が伸びた。一方「広報やホームページ、CATV等で市政がわかる」項目では「そう思わない」「あまりそう思わない」が増えた。

## 6 協働参加社会について

### (21) 社会活動への参加状況



### ○今回結果

「参加している」(35%)、「参加していない」(65%)。

### ○前回結果

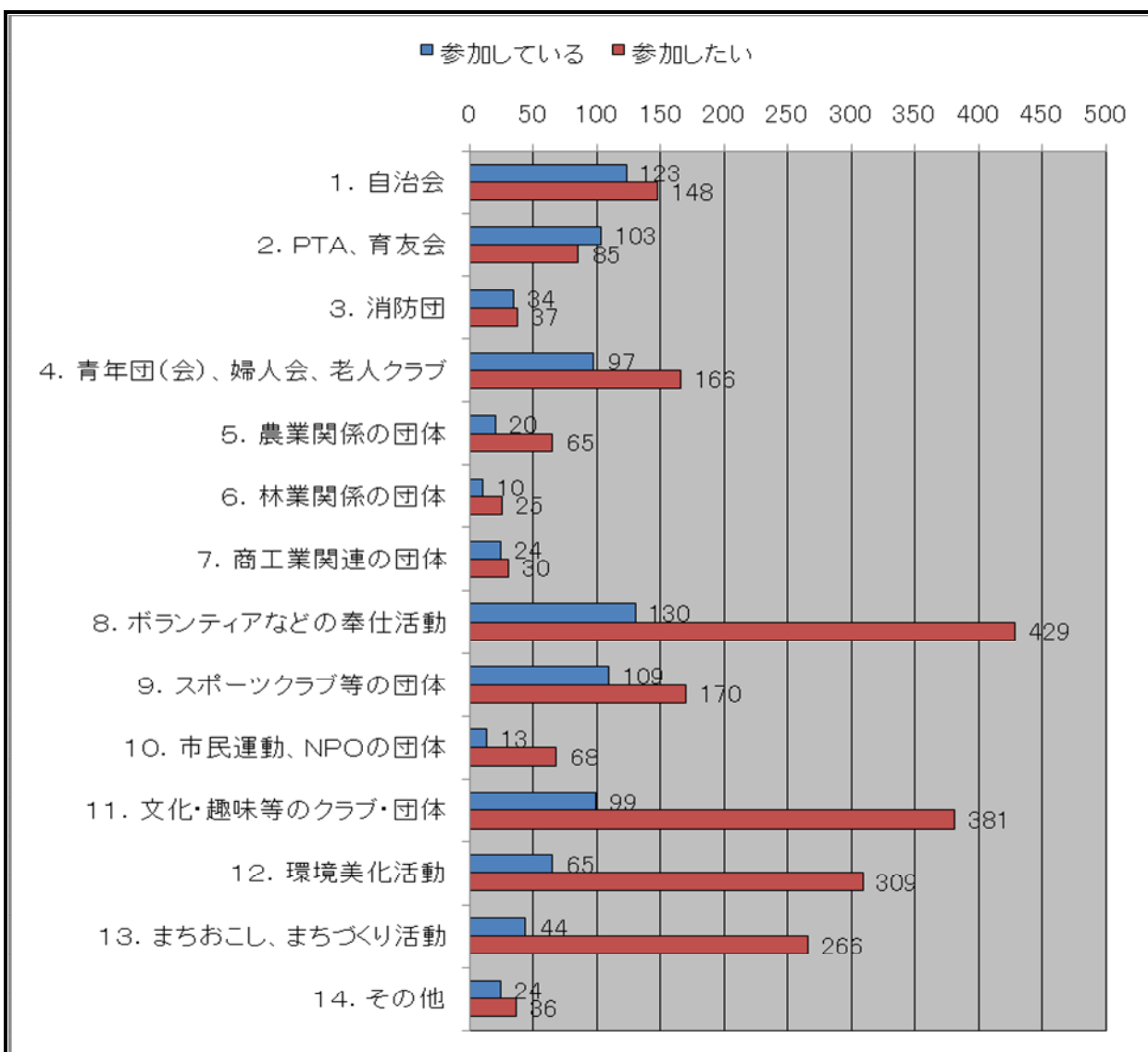
「参加している」(35%)、「参加していない」(65%)

### ○前回との比較

前回と同じとなり、市民の社会活動参加はすすんでいない結果となった。

(22)社会活動に参加している人に聞きました。どのような活動をしていますか。

(23)全員に聞きました。今後どのような活動をしたいですか。



○今回結果

【参加している活動】多い順に①「ボランティアなどの奉仕活動」、②「自治会」、③「スポーツクラブ等の団体」となっている。

【参加したい活動】多い順に①「ボランティアなどの奉仕活動」、②「文化・趣味等のクラブ・団体」、③「環境美化活動」となっている。

○前回結果

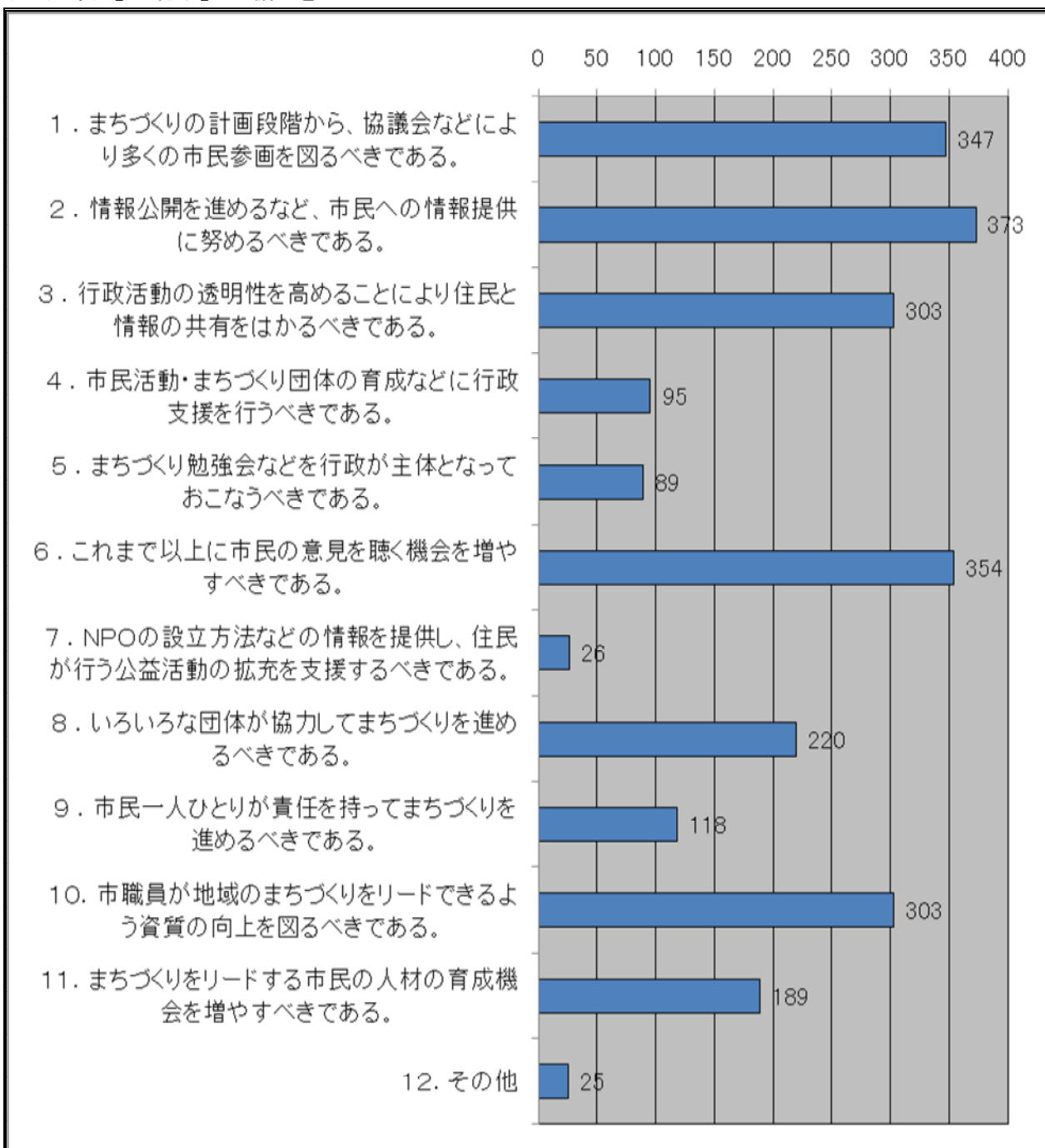
【参加している活動】①「ボランティアなどの奉仕活動」、②「自治会」、③「文化・趣味等のクラブ・団体」

【参加したい活動】①「ボランティアなどの奉仕活動」、②「文化・趣味等のクラブ・団体」、③「環境美化活動」

○前回との比較

前回とほとんど変わらない回答結果となった。前回、今回とも「PTA、育友会」を除き、すべての項目で「参加したい」と答えた人が「参加している」を上回ったにもかかわらず、どの項目も「(21)社会活動への参加状況」の項では、社会活動へ参加する市民の割合が増えていない傾向が示された。

(24)「市民」と「行政」との協力を進めるためには



○今回結果

回答の多かった順に、①「2. 市民への情報提供に努めるべき」、②「6. 市民の意見を聴く機会を増やすべき」、③「まちづくりの計画段階から、協議会などにより多くの市民参画を図るべき」となっている。

○前回結果

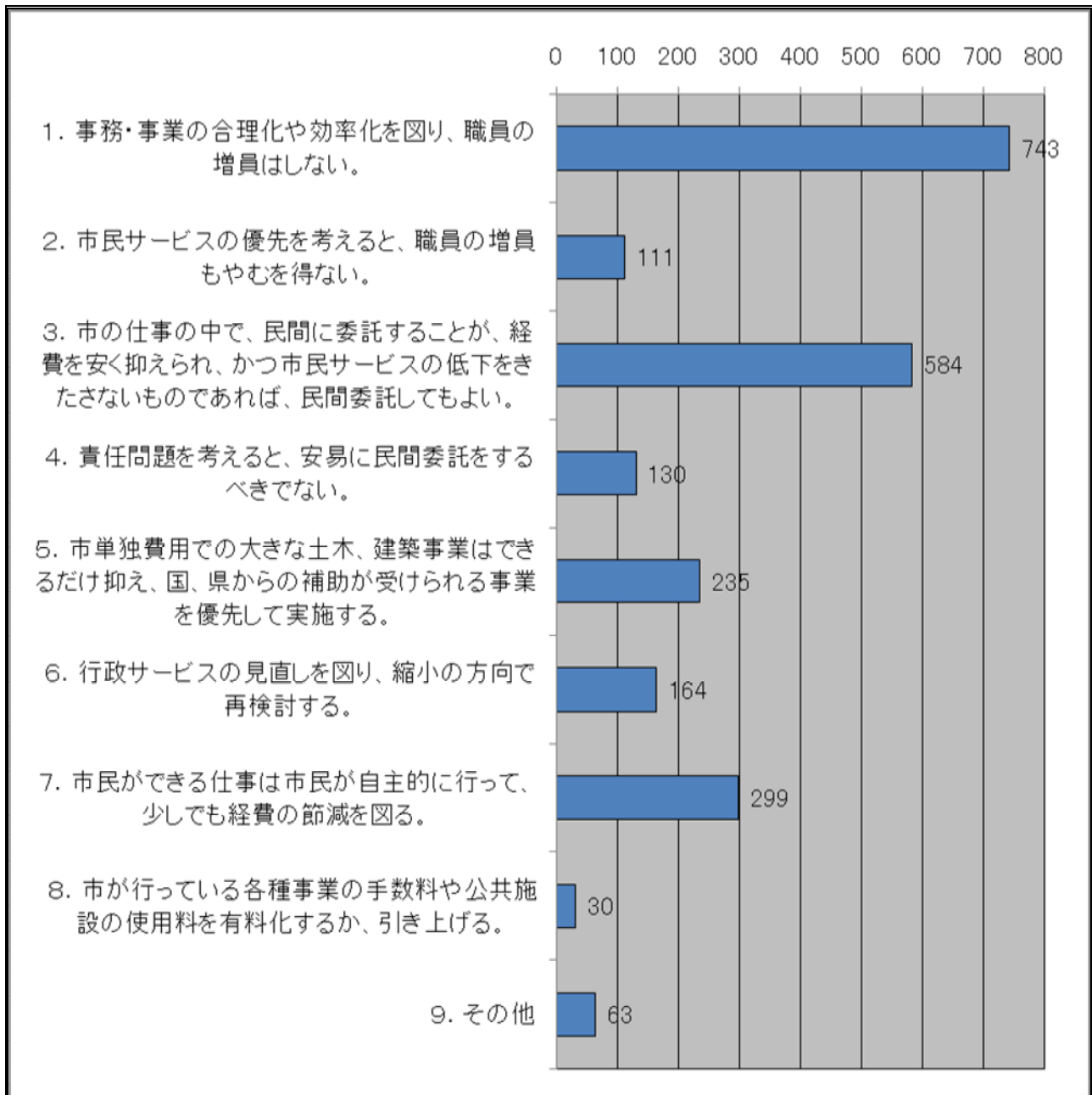
①「3. 行政活動の透明性を高めることにより住民と情報の共有をはかるべき」、②「2. 市民への情報提供に努めるべき」、③「10. 市職員が地域のまちづくりをリードできるよう資質の向上を図るべき」

○前回との比較

前回と上位3項目については変化しているが、その内容は「情報公開」「市民参画」に関する項目が多くの割合を占めている。

## 7 行財政改革について

(25)行財政改革の推進について、どうあるべきですか。



### ○今回結果

回答の多かった順に、①「1. 事務・事業の合理化や効率化を図り、職員の増員はしない」、②「3. 民間委託の推進」、③「市民ができる仕事は市民が自主的に行って、少しでも経費の節減を図る」となっている。

### ○前回結果

①「1. 事務・事業の合理化や効率化を図り、職員の増員はしない」、②「3. 民間委託の推進」、③「市民ができる仕事は市民が自主的に行って、少しでも経費の節減を図る」

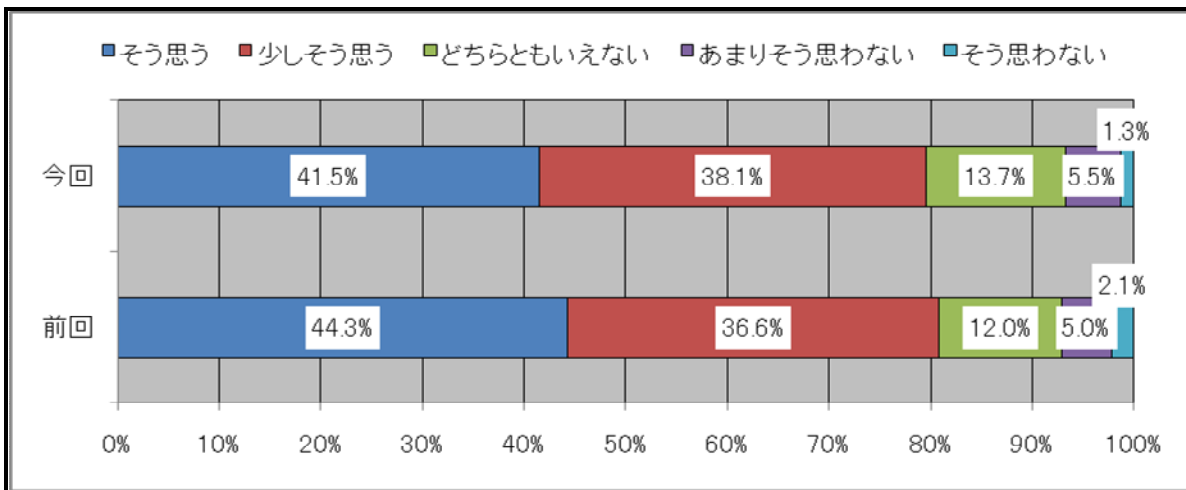
### ○前回との比較

前回と同じ回答結果となった。

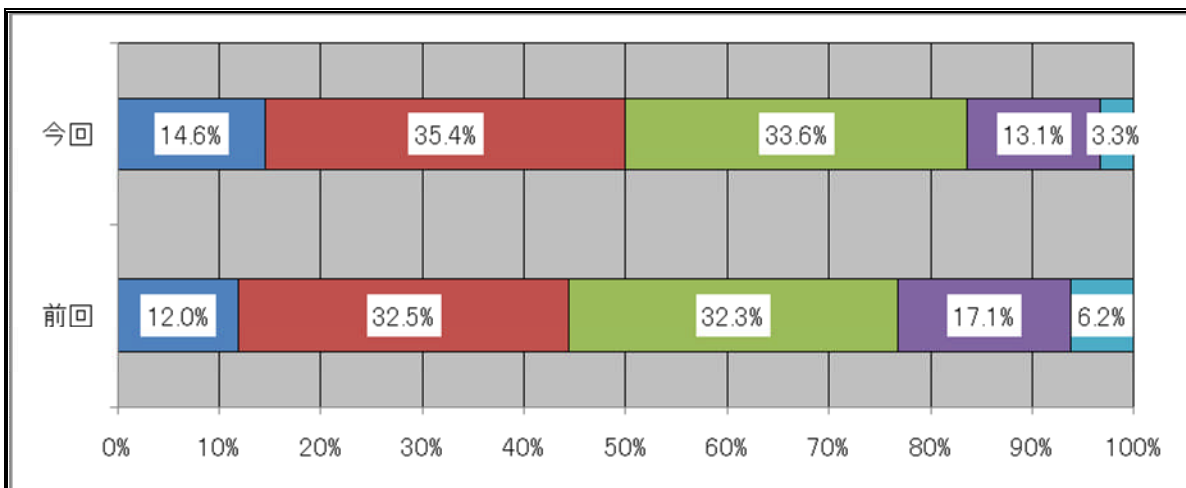
## 8 市のイメージについて

### (26)佐伯市のイメージについて

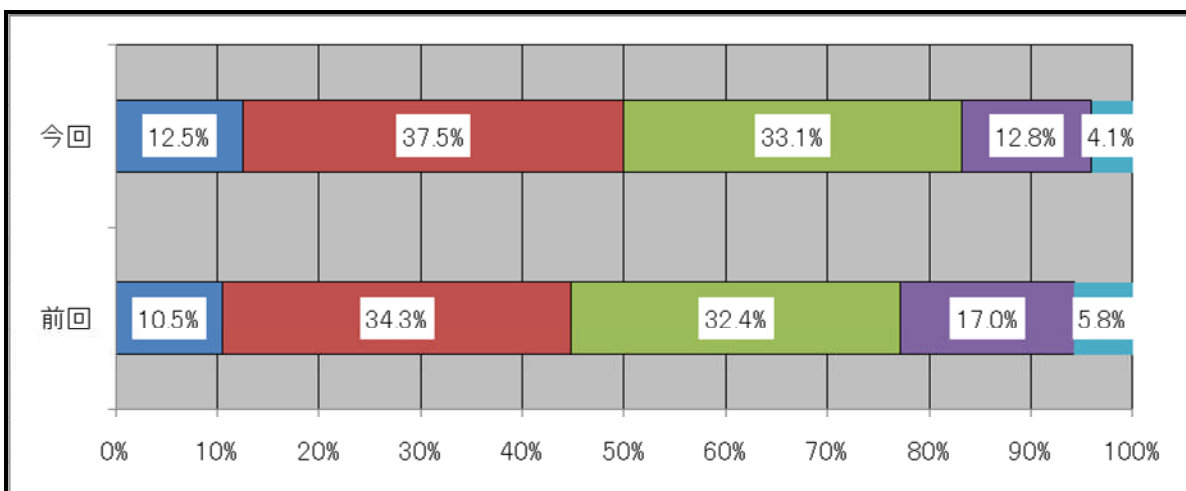
#### ア 水産のまちである



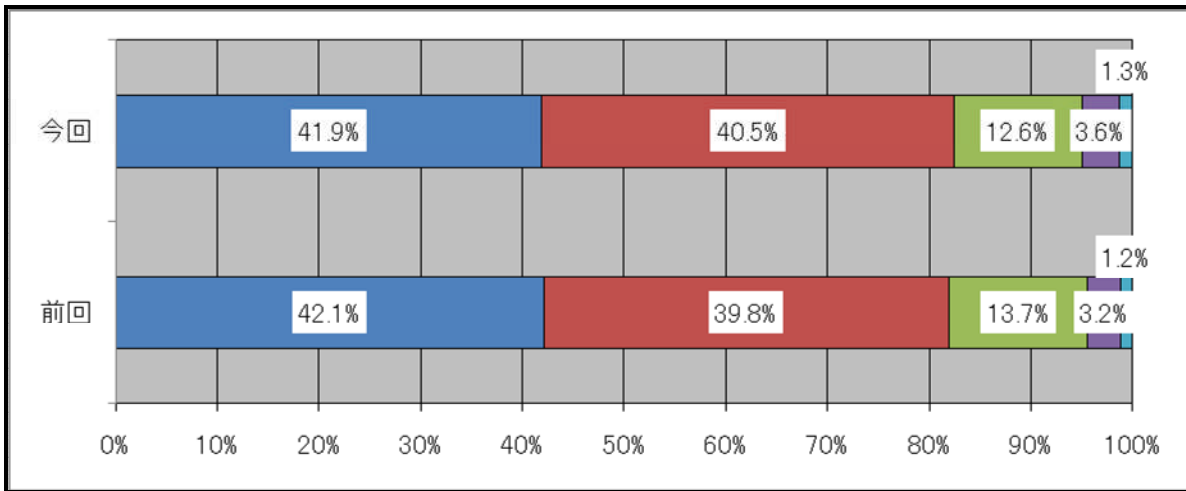
#### イ 農業のまちである



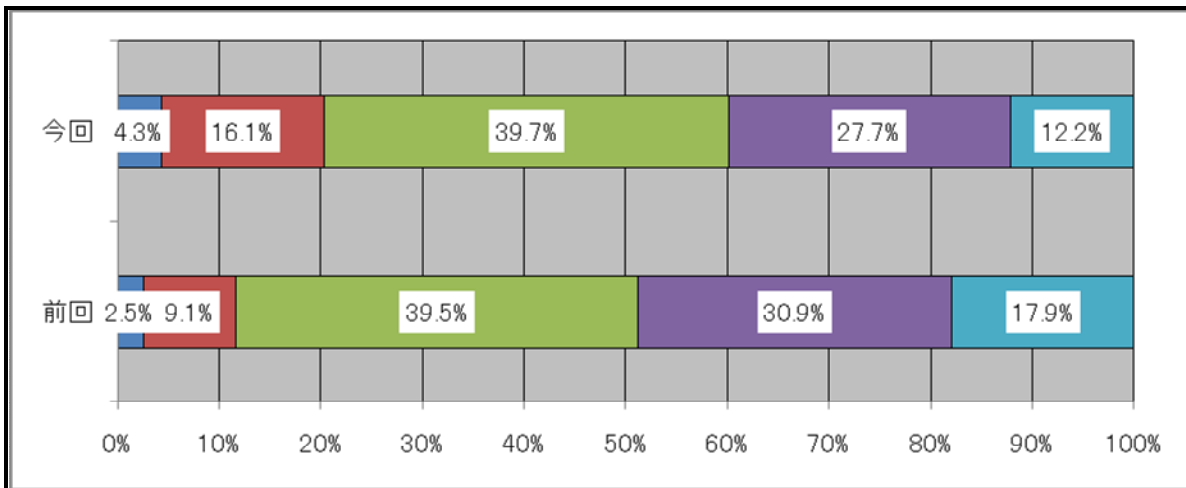
#### ウ 歴史、伝統があるまちである



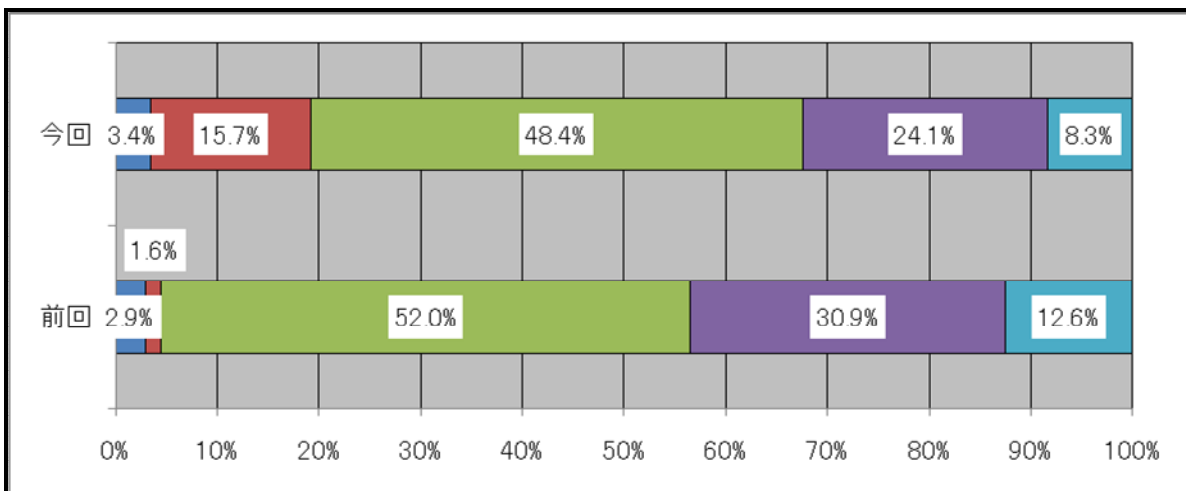
エ 緑豊かなまちである



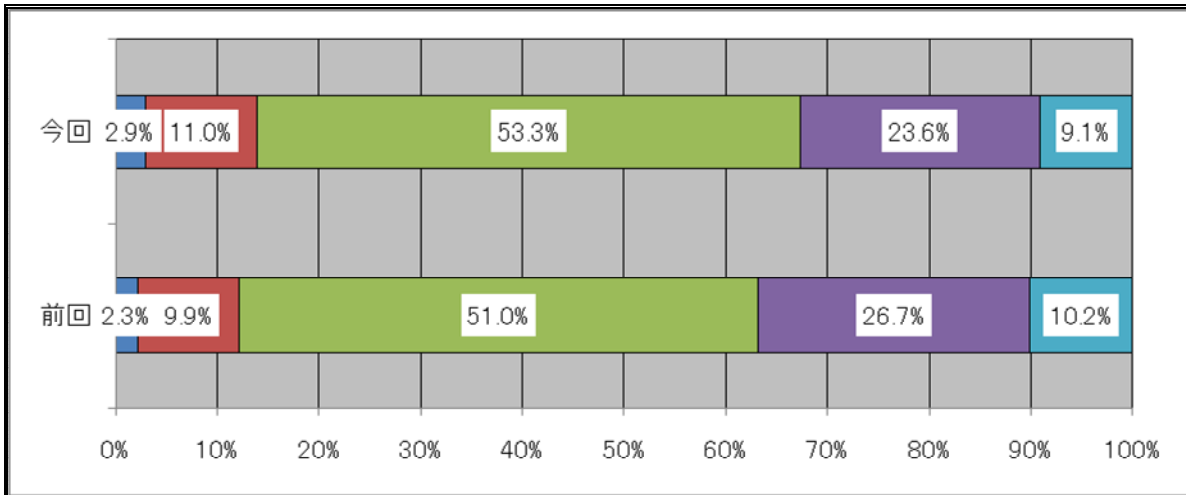
オ 観光のまちである



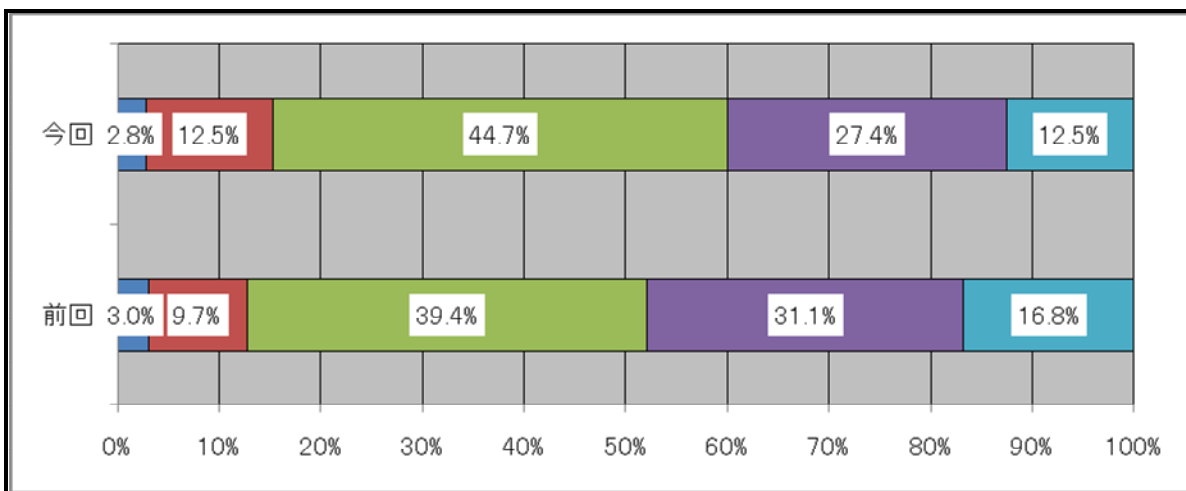
カ 文化的なまちである



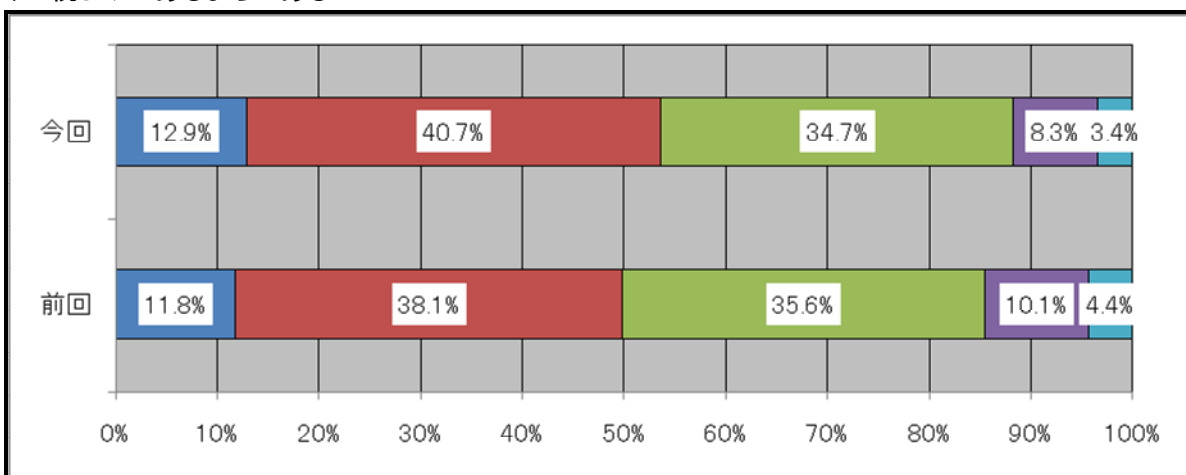
キ 教育に熱心なまちである



ク 明るく活気があるまちである

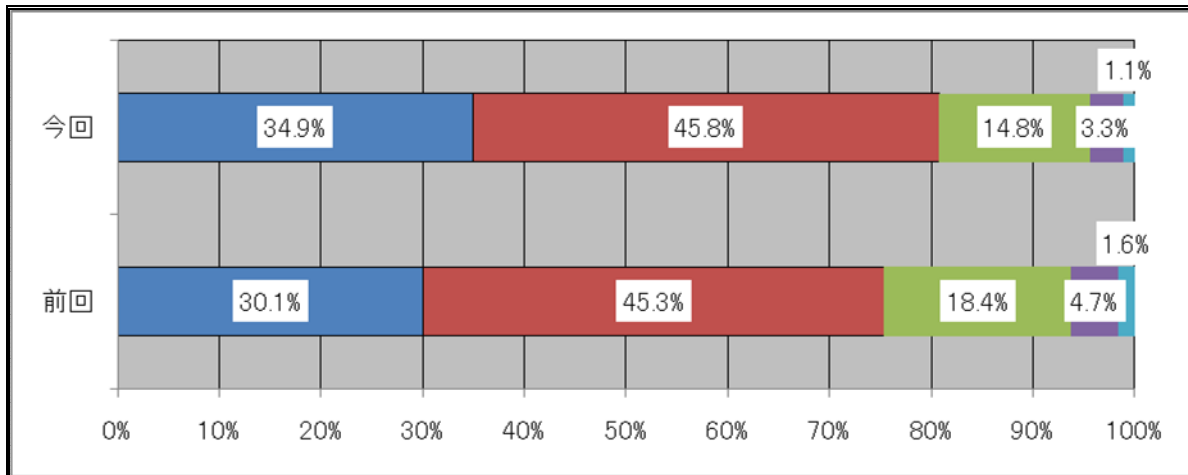


ケ 親しみのあるまちである

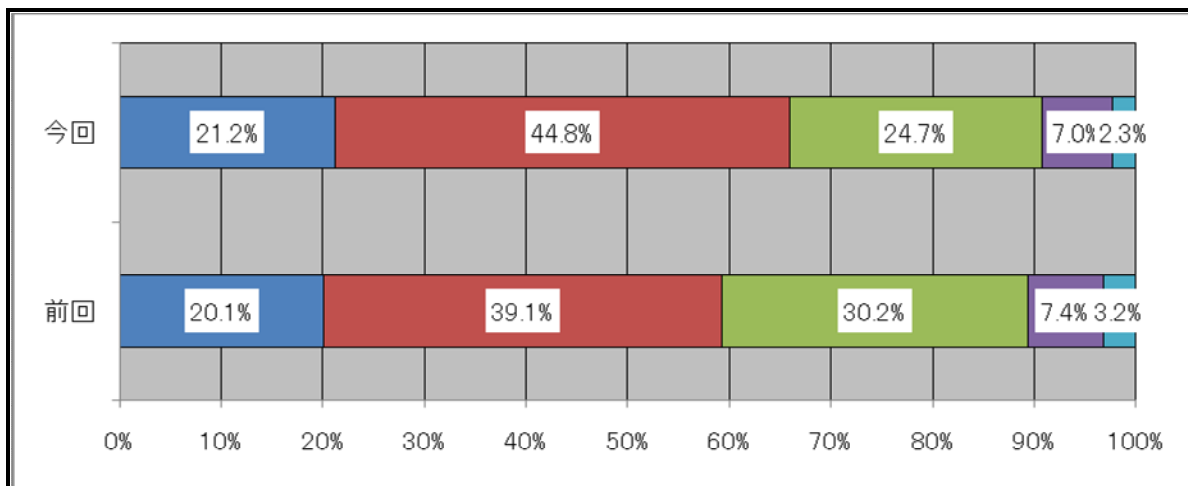




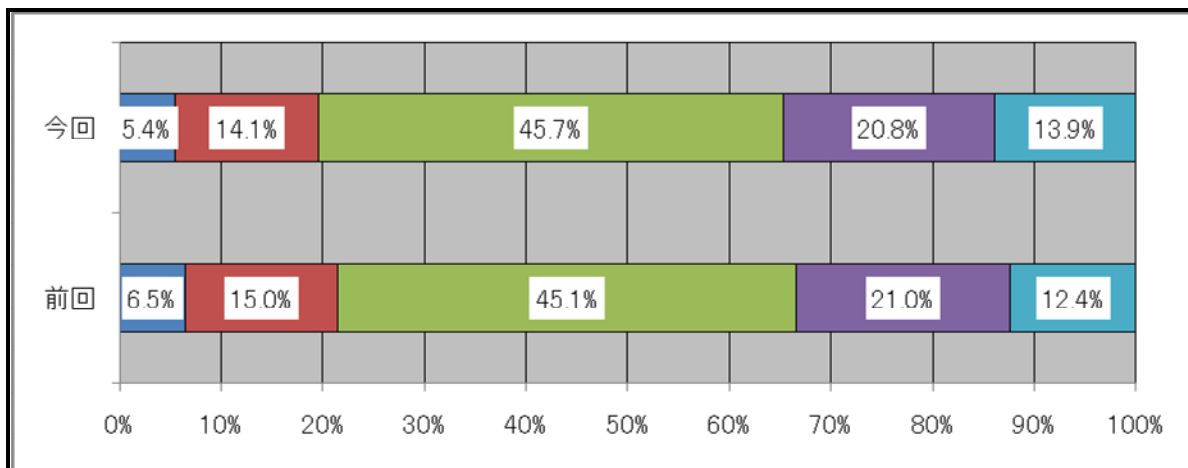
コ 自然豊かで、のどかなまちである



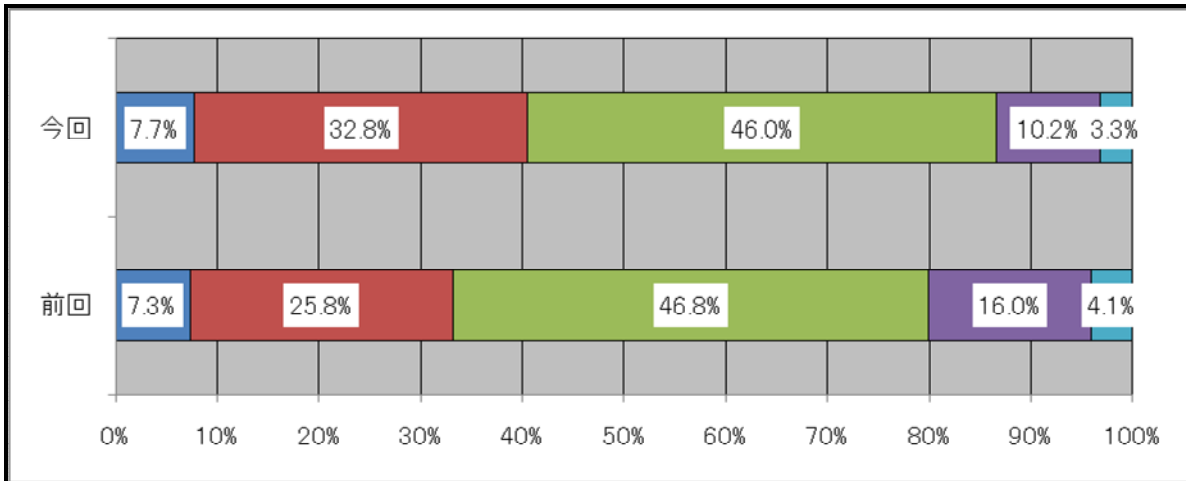
サ 住みやすいまちである



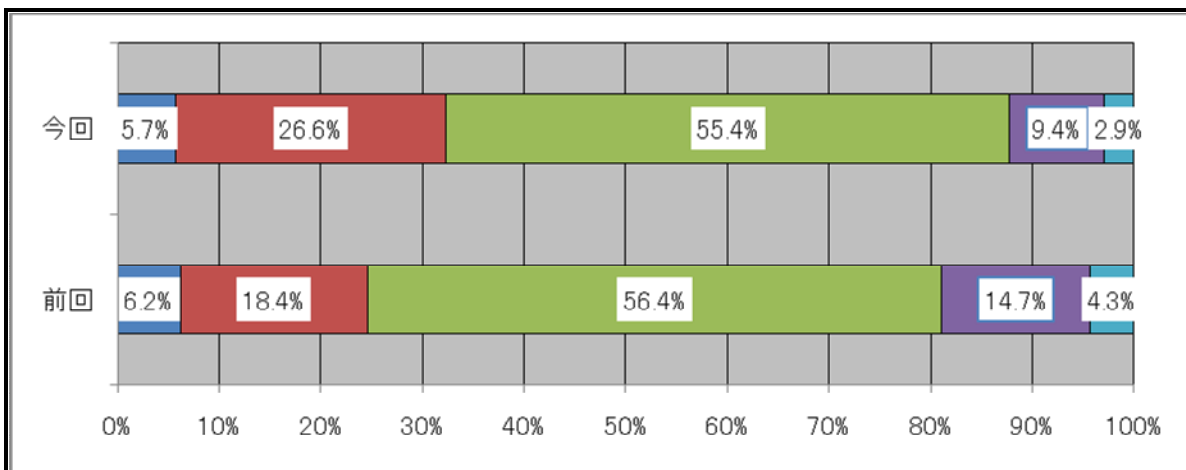
シ 閉鎖的なまちである



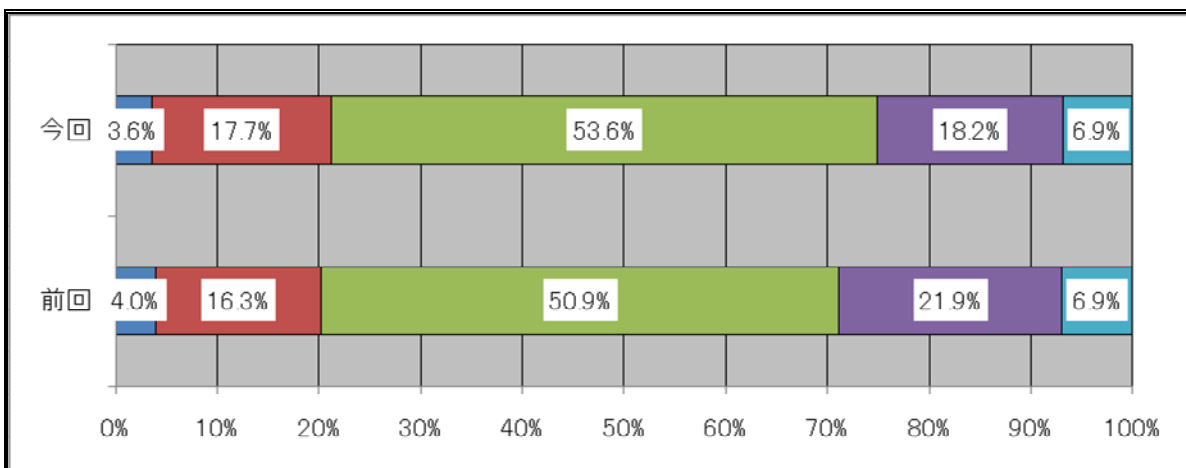
ス きれいなまちである



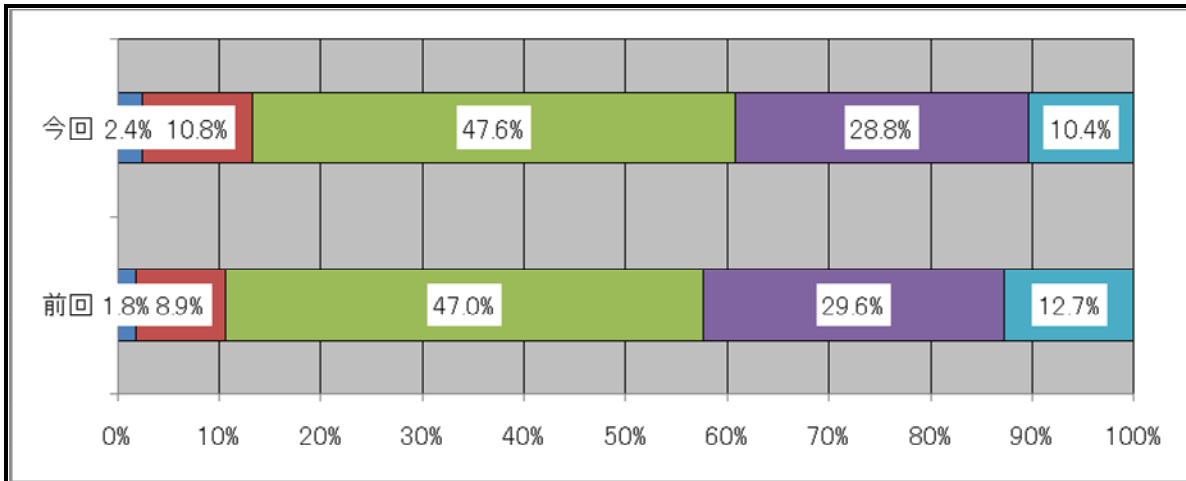
セ 健康的なまちである



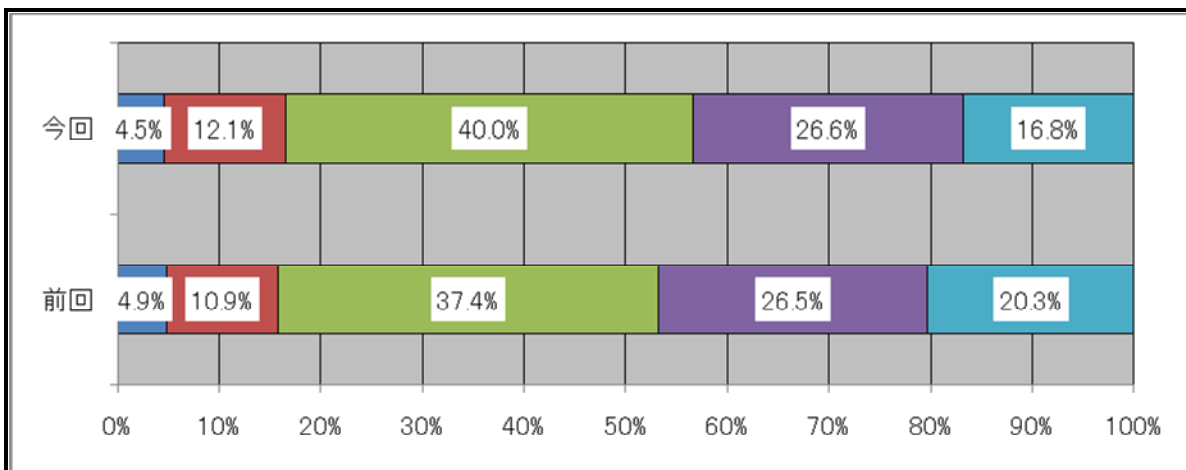
ソ 福祉に充実したまちである



タ まちづくり活動が盛んなまちである



チ 将来性豊かなまちである



○回答結果について

まちのイメージを問うた 17 項目中「オ 観光のまちである」「カ 文化的なまちである」については、「そう思う」「少しそう思う」の占める割合は少ないものの、前回の回答結果より大きく数値を伸ばす結果となった。「イ 農業のまち」「ウ 歴史、伝統」「キ 教育熱心」「ク 明るく活気がある」「ケ 親しみのある」「コ 自然豊か」「サ 住みやすい」「ス きれい」「セ 健康的」「ソ 福祉に充実」「タ まちづくり活動が盛ん」「チ 将来性豊か」の項目についても、「そう思う、少しそう思う」の割合が少しではあるが伸びた。

## 佐伯市総合計画・アンケート調査(評価)

### 1 性別

男性40.9%、女性58%となっており、男女比は4:6である。前回に比べ、男性の回答者が5.6ポイント減り、女性の割合が5.1ポイント増えた。

### 2 年齢

回答者の年齢層は、60歳以上が約55%、60歳未満が約45%であり、60歳を境にほぼ半々の回答となっている。各年齢階層別で最も回答率が高かったのは、60～69歳の47.8%であった。年齢構成に前回との差は見られなかった。

#### ○年齢階層毎の集計表

	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	無回答	合計
配布数	402	416	415	595	716	950		3,494
回収数	101	140	149	236	342	419	5	1,392
回答率	25.1%	33.7%	35.9%	39.7%	47.8%	44.1%		39.8%

### 3 家族構成

二世帯世帯が43.0%、夫婦のみが29.8%であり、全体の7割以上を占めている。三世帯世帯の占める割合は減った。

### 4 職業

その他(55.2%)が一番多く、サービス業(11.9%)、農林漁業(7.3%)となっている。その他については、年金受給者、主婦が大半を占めていると思われる。前回に比較し、農林漁業の回答者割合が2.1ポイント下がった。これは1次産業従事者が減少傾向にあることと連動すると思われる。

### 5 居住地

回答者の居住地で一番多かったのは、佐伯地区(15.0%)であり、順に鶴岡地区(10.6%)、渡町台地区(10.5%)、弥生地区(9.8%)、蒲江地区(8.9%)となっている。居住地の分散は前回と変わらない。

### 6 居住年数

20年以上(83.9%で)が一番多く、10～20年(7.3%)、5～10年(3.3%)となっている。比較的長期間居住している人が回答者となっている。前回とほぼ同様の結果となった。

## 7 佐伯市に愛着を感じますか

「非常に愛着を感じる」と「多少愛着を感じる」を合わせて約88%になっている。前回に比べ2.1ポイント増え、9割近くが本市に愛着を感じている。一方、愛着を感じない人は、11.9%となっている。居住年数との関係を見ると、居住年数の長い人が愛着を感じると回答している割合が高い。

○問6と問7のクロス集計

	非常に愛着を感じる	多少愛着を感じる	あまり愛着を感じない	まったく愛着を感じない	合計
2年未満	5	12	8	1	26
2～5年未満	8	18	12	2	40
5～10年未満	14	22	6	3	45
10～20年未満	28	57	14	1	100
20年以上	570	476	100	15	1,161
合計	625	585	140	22	1,372

※クロス集計できない回答が6件

## 8 佐伯市に愛着を感じない理由として

「働く場が少なく活気が乏しいから」(44.1%)が一番多く、「生活する上で不便だから」(22.7%)となっている。この回答から、働く場の少なさや利便性などが、愛着の程度に大きく影響していると考えられる。前回との比較では、前者が4.9ポイント減少したが、後者が3.2ポイント増えた。

## 9 佐伯市は住みよいところか

「どちらかといえば住みよい」(44.1%)が一番多く、「住みよい」(40.9%)となっており、合わせて85.0%になっている。住みにくいと答えた人は約15%となっている。前回に比べると、両者あわせた「住みよい」は2ポイント上昇した。

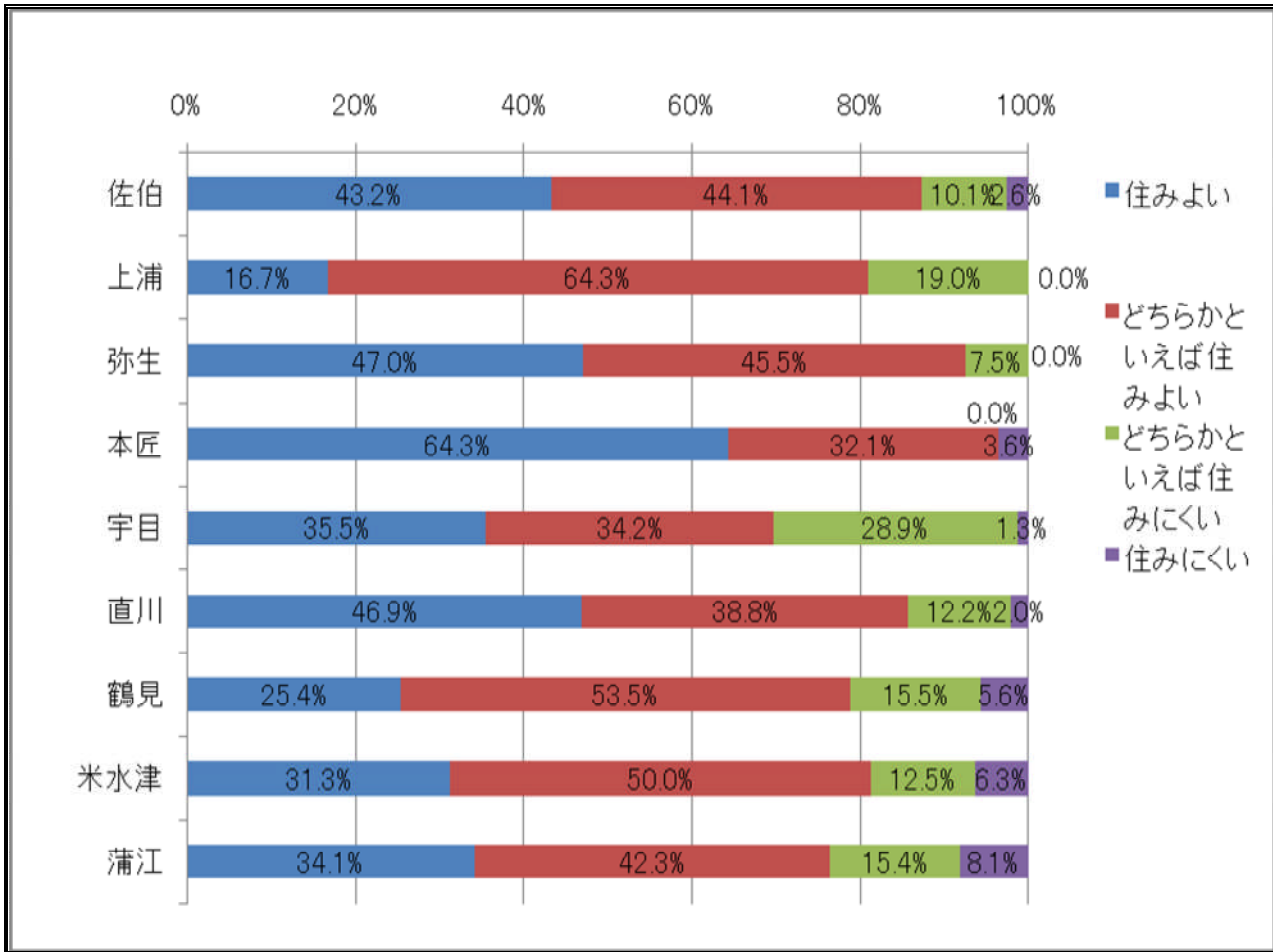
居住地とのクロス集計では、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の回答率が高かったのは、本匠地区(96.4%)、弥生地区(92.5%)、佐伯地区(87.3%)となっている。

「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の回答率が高かったのは、宇目地区(30.2%)、蒲江地区(23.5%)、鶴見地区(21.1%)となっている。

○問5と問9のクロス集計

居住地	住みよい	どちらかといえば住みよい	どちらかといえば住みにくい	住みにくい
佐伯	43.2%	44.1%	10.1%	2.6%
上浦	16.7%	64.3%	19.0%	0.0%
弥生	47.0%	45.5%	7.5%	0.0%
本匠	64.3%	32.1%	0.0%	3.6%
宇目	35.5%	34.2%	28.9%	1.3%
直川	46.9%	38.8%	12.2%	2.0%
鶴見	25.4%	53.5%	15.5%	5.6%
米水津	31.3%	50.0%	12.5%	6.3%
蒲江	34.1%	42.3%	15.4%	8.1%

○クロス集計結果グラフ



## 10 佐伯市が住みよい理由

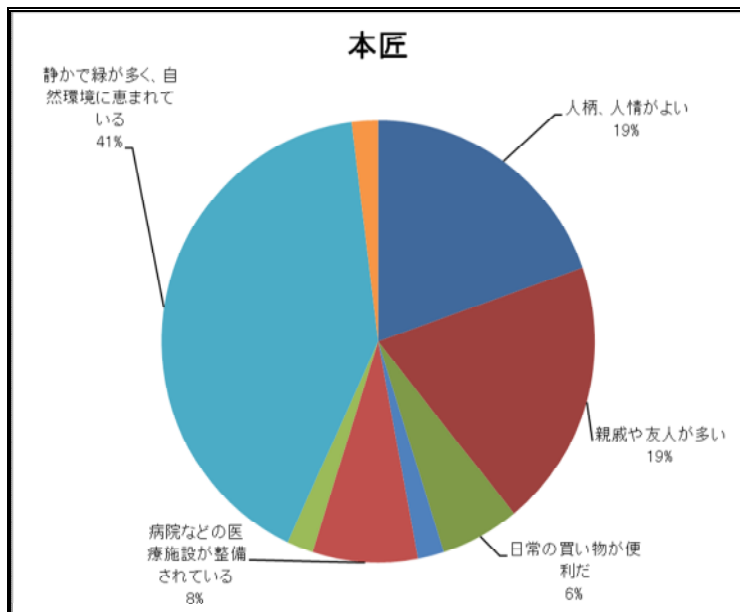
「静かで緑が多く自然環境に恵まれている」(32.7%)が一番多く、「親戚や友人が多い」(20.5%)、「人柄、人情がよい」(20.4%)となっている。

居住地とのクロス集計で、住みやすいの回答率が最も高かった本匠地区の住みやすい理由は、「静かで緑が多く自然環境に恵まれている」(41.2%)が一番多く、「親戚や友人が多い」(19.6%)、「人柄、人情がよい」(19.6%)となっており、全体の理由と一致する結果となった。

○問5と問10のクロス集計

居住地	人柄、人情がよい	親戚や友人が多い	日常の買い物が便利だ	物価が安い	通勤、通学などの交通が便利だ	文化施設や公園などの憩いの場が整備されている	学校や幼稚園、保育所などの教育、保育施設が整備されている	病院などの医療施設が整備されている	住民活動、サークル活動が盛んである	歴史や伝統文化が残されている	静かで緑が多く、自然環境に恵まれている	その他
佐伯	18.7%	18.8%	10.9%	3.9%	2.5%	1.1%	1.0%	4.9%	0.9%	2.4%	32.1%	2.8%
上浦	33.3%	23.8%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	1.6%	31.7%	1.6%
弥生	19.4%	22.7%	9.3%	3.2%	1.2%	0.8%	2.0%	5.7%	0.8%	3.6%	29.1%	2.0%
本匠	19.6%	19.6%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	7.8%	2.0%	0.0%	41.2%	2.0%
宇目	27.1%	18.7%	2.8%	0.9%	0.0%	0.9%	1.9%	3.7%	0.0%	3.7%	35.5%	4.7%
直川	22.8%	20.7%	3.3%	2.2%	1.1%	2.2%	1.1%	4.3%	1.1%	2.2%	37.0%	2.2%
鶴見	20.0%	25.5%	3.6%	0.9%	0.9%	0.9%	3.6%	1.8%	0.9%	1.8%	39.1%	0.9%
米水津	26.0%	24.0%	6.0%	0.0%	2.0%	0.0%	2.0%	4.0%	0.0%	0.0%	34.0%	2.0%
蒲江	26.5%	27.0%	3.7%	2.6%	1.6%	0.0%	1.1%	3.2%	0.0%	0.5%	32.3%	1.6%

○本匠地区の住みやすさの理由



## 11 住みにくい理由

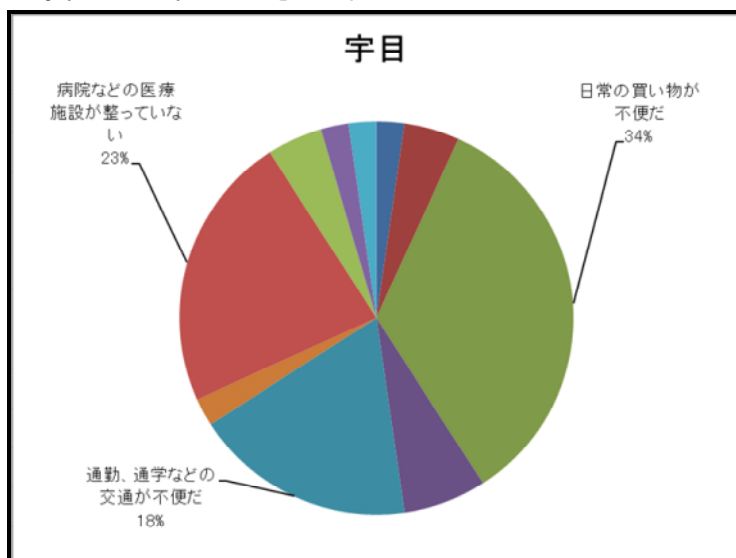
「日常の買物が不便」(22.4%)が一番多く、「病院などの医療施設が整っていない」(15.4%)、「通勤、通学などの交通が不便」(13.0%)となっている。前問の住みよい理由にあげられたものと重複している項目はない。前回との比較では「日常の買い物不便」が3.4ポイント上昇した。

居住地とのクロス集計で住みにくいの回答率が最も高かった宇目地区の住みにくい理由は、「日常の買物が不便」(34.1%)が一番多く、「病院などの医療施設が整っていない」(22.7%)、「通勤、通学などの交通が不便」(18.2%)となっており、全体の理由と一致していることから、多少の地域性はあるが、極端な地域的差は感じられない結果となった。

### ○問5と問11のクロス集計

居住地	人柄、人情がよくない	人間関係がわずらわしい	日常の買い物不便だ	物価が高い	通勤、通学などの交通が不便だ	文化施設や公園などの憩いの場が整っていない	学校や幼稚園、保育所などの教育、保育施設が整っていない	病院などの医療施設が整っていない	親戚や友人が少ない	地域の行事や催しが少ない	田舎で寂しい	その他
佐伯	6.3%	3.7%	16.8%	9.5%	11.1%	10.5%	4.2%	13.7%	1.6%	3.7%	8.9%	10.0%
上浦	5.6%	16.7%	33.3%	0.0%	5.6%	5.6%	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	11.1%	0.0%
弥生	0.0%	11.8%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	17.6%	11.8%	0.0%	17.6%	0.0%
本匠	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
宇目	2.3%	4.5%	34.1%	6.8%	18.2%	2.3%	0.0%	22.7%	4.5%	2.3%	2.3%	0.0%
直川	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
鶴見	0.0%	17.2%	20.7%	10.3%	17.2%	3.4%	0.0%	13.8%	0.0%	3.4%	6.9%	6.9%
米水津	0.0%	7.1%	21.4%	21.4%	14.3%	0.0%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
蒲江	6.7%	8.3%	30.0%	3.3%	18.3%	3.3%	1.7%	21.7%	0.0%	0.0%	5.0%	1.7%

### ○宇目地区の住みにくさの理由





## 12 佐伯の状況を評価

(1)「満足している」と「やや満足している」を合わせて40%を超えた項目

- イ 道路の整備(歩道、舗装、改良等) 42.5%
- オ 教育施設の整備状況(小・中学校、幼稚園等) 46.3%
- コ スポーツ施設の整備状況(体育館、運動場、プール等) 48.1%
- シ 水道施設(上水道、簡易水道等) 60.8%
- ス し尿処理施設(下水道、合併浄化槽等) 48.3%
- セ ごみの回収、処理 72.6%
- タ 緑の豊かさ 87.4%
- チ 河川のきれいさ 64.8%
- ツ その他周辺環境(空気の汚れ、騒音、悪臭等) 62.4%
- テ 日常の買い物の便利さ 50.8%
- ナ 隣近所のつきあい 61.0%

40%を超えた項目の内、「シ 水道施設」、「セ ごみの回収、処理」、「タ 緑の豊かさ」、「チ 河川のきれいさ」、「ツ その他周辺環境」、「テ 日常の買い物の便利さ」、「ナ 隣近所のつきあい」以上の7項目については、50%を超える満足度となっている。

(2)「不満である」と「やや不満である」を合わせて30%を超えた項目

- ア 洪水、地滑り等の自然災害からの安全性 33.0%
- イ 道路の整備(歩道、舗装、改良等) 35.3%
- ケ 医療施設の整備状況(緊急病院、診療所等) 32.4%
- ソ 防災施設の整備(消防、避難所、防災無線等) 31.2%
- ト バス、JR等の便利さ(公共交通機関の利便性) 38.7%

「イ 道路の整備」については、「満足している」の項目にもあがっている。「不満である」の理由については、「現道に歩道がない」「舗装の老朽化」などの意見が多くあげられている。「ソ 防災施設の整備」については、前回より「不満・やや不満」の占める割合が増えている。これについては、東日本大震災における津波被害を受けて、避難路及び避難所への見直しを求める声が反映されたものと考えられる。また、40%を超える項目はなかった。

前回との比較では20項目で「不満・やや不満」の割合が減少した。特に「道路の整備」「こどもの遊び場の整備状況」「青少年に対する社会環境・風紀」の分野では「満足・やや満足」の割合が大きく伸びた。一方、「防災施設の整備」と「日常の買い物の便利さ」の項目では「不満・やや不満」の占める割合が増えた。「防災施設の整備」については、東日本大震災における津波被害を受けて、避難路及び避難所の見直しを求める声が反映されたものと考えられる。「日常の買い物の便利さ」については、高齢化による自動車運転免許証の返納や公共交通機関の路線・便数の縮小などが要因と考えられる。

## 13 これからも佐伯市に住むか

「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合わせて85.3%となっており、比較的高い数値となっている。住みたいと答えた割合が2.1ポイント上昇した。この結果は(8)「佐伯市は住みよいところか」との設問結果と同じ傾向を示す。

#### 14 施策の中で特に力を入れるべきもの(ハード事業)

最も高い回答率だったのは、「高齢者等の保健・医療施設の整備」である。続いて「急傾斜地崩壊防止対策などの防災の整備」、「河川や海岸などの環境の整備」、「中心商店街の整備」、「市道などの整備」となっており、大きく「福祉・医療」、「生活環境」、「生活基盤」の3分野に分かれる。これらは、市民生活と特に密接に関連する分野であり、日常生活において感じる身近なものへの要求度が高いといえる。

前回との比較では、前回、上位5番に入らなかった「急傾斜地崩壊亡児対策など防災の整備」項目が2番目となり、本アンケート「(12)佐伯市の状況評価」中「ソ 防災施設の整備」の項で「不満・やや不満」の割合が増加したことと相関する結果となった。東日本大震災の被災状況を目の当たりにし、市民が防災に関心を強く持ったことのためであろう。一方、「市道などの整備」、「国道・県道などの幹線道路の整備」が順位を下げた。これは先の「(12)佐伯市の状況評価」中「イ 道路の整備」の項で「満足・やや満足」の割合が大きく伸びたことと関係が深いと思われる。

#### 15 施策の中で特に力を入れるべきもの(ソフト事業)

最も高い回答率だったのは、「高齢者福祉対策の充実」である。続いて「企業誘致の推進」、「防災訓練などの推進」、「ごみの減量化やリサイクル処理など環境施策の推進」、「バスなどの公共交通機関の対策」となっている。比較的、日常生活と密接に関連するものが多い中で、「防災訓練などの推進」については、東日本大震災の影響で特に要求度が高まったと考えられる。

前回との比較では同じ傾向にあるものの、ハード同様「防災訓練などの推進」が上位に位置した。これは「(14) 施策の中で力を入れるべきもの(ハード事業)」と同様の傾向となった。また、「バスなどの公共交通機関の対策」が引き続いて上位に位置しているのは、これまで住みにくさの理由として高い割合であげられた「日常の買い物が不便」、「通勤、通学が不便」の裏返しと考えられる。

#### 16 佐伯市のまちづくりで重視するもの

最も高い回答率だったのは、「若い人が住む活力のあるまち」である。続いて、「生活が楽しく、はりのあるまち」、「生活環境が優れた住みよいまち」となっている。活力と生活環境の利便性や安全性などを重視する傾向が強いことがわかる。

#### 17 老後、行政に何を期待するか

最も高い回答率だったのは、「生活の安定(年金などの給付の充実、就労の斡旋など)」である。この項目については、他の項目と比べても突出して回答率が高く、老後における収入安定の施策充実を期待していることがうかがえる。また、医療費の減額や介護施設の充実など、健康面に対する期待も回答結果に表れている。

前回と比較しても、介護施設の充実を望む声の順位が上昇した。

#### 18 福祉サービスについて、何に力をいれてほしいか。

最も高い回答率だったのは、「国民年金などの年金の充実」である。前問の「老後、行政に何を期待するか」の回答と同様に、福祉、医療に対して関心が高い回答結果となった。

## 19 市役所と振興局に対する意見

(1)「そう思う」と「少しそう思う」を合わせて40%を超えた項目

- ア 気軽に市役所や振興局に行ける 53.0%
- イ 窓口、利用したい課・係が分かりやすい 44.6%
- ウ 職員の対応が良い 45.3%
- エ 広報やホームページ、CATV等で市政がわかる 42.7%
- ケ 待たされることなく、事務処理が素早く済む 40.7%

40%を超える項目については、窓口対応や利便性に関連するものが多い結果となった。

(2)「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて40%を超えた項目

- カ 市民の意見が市政に反映されている 44.7%
- キ まちづくりが計画的に行われている 43.3%

市民意見の意向把握と各種施策への反映を期待・要望している結果となっている。

前回との比較では、10項目については、9項目で前向きな評価が増加した。特に「市の施設は利用しやすい」項目に関しては「そう思う・少しそう思う」の割合が伸びた。一方「広報やホームページ、CATV等で市政がわかる」項目では「そう思わない」「あまりそう思わない」が増えた。

## 20 今後の市役所・振興局をよくしていくためにはどうしていくべきか

出された意見は、別紙資料に掲載している。

## 21 社会活動への参加状況

「参加している」(35%)、「参加していない」(65%)で、参加していない比率が高い結果となっている。

## 22 どのような活動をしていますか

既に社会活動に参加している人の活動内容としては、「ボランティアなどの奉仕活動」が最も多く、「自治会」、「スポーツクラブ等の団体」などとなっている。このように身近な環境下での活動が主体となっていることがうかがえる。

## 23 今後どのような活動をしたいですか

今後参加したい活動としては、「ボランティアなどの奉仕活動」が最も多く、「文化・趣味等のクラブ・団体」、「環境美化活動」となっている。これらのことから、身近で参加しやすい活動に関心が高いことがうかがえる。また、「まちおこし、まちづくり活動」についても、参加意欲の高さが表れており、問15の「期待する施策(ソフト事業)」では、まちづくり関係の施策は低い回答率だったが、市民の参加意欲としては、「まちおこし、まちづくり活動」についての関心が高いと考えられる。

前回とほとんど変わらない回答結果となったが、前回、今回とも「PTA、育友会」を除き、すべての項目で「参加したい」と答えた人が「参加している」を上回ったにもかかわらず、どの項目も「(21)社会活動への参加状況」の項では、社会活動へ参加する市民の割合が増えていない傾向が示された。

## 24 「市民」と「行政」との協力を進めるためには

回答率が高い順に、「情報公開を進めるなど、市民への情報提供に努めるべき」、「市民の意見を聴く機会を増やすべき」、「まちづくりの計画段階から、協議会などにより多くの市民参画を図るべき」、「市職員が地域のまちづくりをリードできるような資質の向上を図るべき」となっているが、回答率的には、ほとんど差はない。これらの結果から、「市民意見の反映」、「市職員の人材育成」が今後取り組むべき大きな課題であると考えることができる。

## 25 行財政改革の推進について、どうあるべきですか。

最も回答率が高かったのは、「事務・事業の合理化や効率化を図り、職員の増員はしない」である。次に高かったのは、「市の仕事の中で、民間に委託することが、経費を安く抑えられ、かつ市民サービスの低下をきたさないものであれば、民間委託してもよい」であった。この2項目の回答率が突出しているなか、「市民が出来る仕事は市民が自主的に行って、少しでも経費の節減を図る」などの意見も出ており、市民参画による行革推進についてもある程度理解されている結果となった。

## 26 佐伯市のイメージについて

(1)「そう思う」と「少しそう思う」を合わせて50%を超えた項目

- ア 水産のまちである 79.5%
- イ 農業のまちである 50.0%
- ウ 歴史、伝統があるまちである 50.0%
- エ 緑豊かなまちである 82.4%
- ケ 親しみのあるまちである 53.6%
- コ 自然豊かで、のどかなまちである 80.7%
- サ 住みやすいまちである 66.0%

50%を超えた項目のなかでも、「水産のまちである」「緑豊かなまちである」「自然豊かで、のどかなまちである」のイメージが突出していることがうかがえる。

(2)「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて30%を超えた項目

- オ 観光のまちである 39.9%
- カ 文化的なまちである 32.5%
- キ 教育に熱心なまちである 32.7%
- ク 明るく活気があるまちである 40.0%
- シ 閉鎖的なまちである 34.7%
- タ まちづくり活動が盛んなまちである 39.2%
- チ 将来性豊かなまちである 43.4%

「観光」「文化」「教育」「活気」「まちづくり」「将来性」についてのイメージが低い結果となった。これらに対する施策の充実が求められているといえる。

前回との比較では、17項目中「オ 観光のまちである」「カ 文化的なまちである」については、「そう思う」「少しそう思う」の占める割合は少ないものの、前回の回答結果より大きく数値を伸ばす結果となった。「イ 農業のまち」「ウ 歴史、伝統」「キ 教育熱心」「ク 明るく活気がある」「ケ 親しみのある」「コ 自然豊か」「サ 住みやすい」「ス きれい」「セ 健康的」「ソ 福祉に充実」「タ まちづくり活動が盛ん」「チ 将来性豊か」の項目についても、「そう思う、少しそう思う」の割合が少しではあるが伸びた。一方「ア 水産のまち」をそう思うと答えた者は8割近くにのぼるものの、その割合は減少した。

## 27 これからの佐伯市を良くしていくためにはどうすべきか

出された意見は、別紙資料に掲載している。

### 【まとめ】

#### 1 住みやすさ

本市への愛着の有無、住みよいか否かというくりでは、平成19年の結果も高い満足を示したが、各項目ともさらにその値が数ポイント上昇し、市民の本市を愛する気持ち、帰属意識の強さを確認する結果となった。愛着を感じない、住みにくいと答えた者の割合は減少したが、「日常の買い物不便」をその理由に挙げた者の割合が増加した。市民は地元で愛着を感じながらも、すすむ高齢化、公共交通サービスの低下、地元商店街の衰退などで住みにくさを感じている姿が浮き彫りになった。

#### 2 市の現状

インフラ・行政サービス・生活環境の現状についての設問では、総じて不満・やや不満の割合が減り、道路、公園、社会環境・風紀に関しては満足・やや満足とする者の割合が大きく伸びた。これは、ここ数年、ハードの整備が臨時交付金など政府の景気対策や合併特例債を活用した事業実施が市民が実感したといえる。今回の調査でもう一つ特徴的なことは、「防災施設の整備」の項目で不満・やや不満とする者の割合が大きく増えたことである。これは東日本大震災の被災状況を目の当たりにし、防災に関心が高まった現れであろう。

#### 3 市の施策に望むもの

ハード面では、前回に比べ、防災の観点からの施設整備を望む声の割合が増加した。これは前記「2 市の現状」の項で述べたことと同様に、震災が影響しての結果と思われる。その他は、前回の調査と同じ傾向となり、引き続き高齢者の保健・医療施設、河川・海岸の整備、商店街、道路など、インフラの充実を望む声強い結果となった。ソフト面では防災訓練の充実、高齢者福祉の充実、企業誘致、環境施策、公共交通対策などを求める声が多く、防災訓練の充実を除き、前回と同じ傾向となった。

ハード、ソフトの両面でなお市へ必要な対策を望む意見が多いということは、「2 市の現状」の項に示したインフラ整備や行政サービスなどの満足度が上昇したという評価とは別に、なお各種施設の整備の必要とソフト事業の充実が求められていることを示している。

#### 4 市役所について

市役所と市職員に対する評価ポイントは、前回に比べ上昇した。しかし、全体として評価するとした意見は5割に満たず、寄せられたあまたの意見と合わせ、引き続き、市役所・市職員に寄せる厳しい目と期待が表れている結果となった。

#### 5 市民参加について

前回同様、社会活動への関心は高いが、参加者数は増えていない。市民の参加したい活動の受け皿が不足していることが原因として考えられる。

#### 6 市のイメージについて

前回同様、水産のまち、農業のまちという1次産業のイメージと、自然・歴史・伝統などの言葉で表されるまちのかたちが色濃く出された。また観光のまち、文化のまちというイメージを連想する者の割合も大きく伸びた。